

アメリカの社会と文化

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

This course is designed to assist students in learning about American society and culture and America's influence in the world. Extensive use will be made of audio visual materials depicting various aspects of American life.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	Course Registration and Introduction	17	Exam III
2	Intro to American Society & Culture	18	The Dominant Culture in America
3	American Geography	19	Minority Cultures in America
4	Exam I Map Quiz	20	Challenges to the Dominant Culture
5	The Native People of America	21	Malcolm X
6	Pocahontas	22	Slavery in American
7	Europeans Arrive	23	Amistad
8	Dances with Wolves	24	African American Society and Culture
9	American Expansion on the Continent	25	Exam IV
10	American Expansion on the Continent	26	American Religious Culture
11	Exam II	27	30 Days with American Muslims
12	American Expansion around the World	28	Gay Society and Culture in America
13	American Expansion around the World	29	30 Days in the Castro
14	Born on the Fourth of July	30	American Car Culture
15	American Military Culture and Guns	31	Exam V
16	Bowling for Columbine		

【履修上の注意事項】

Students should note that this class will be conducted primarily in English.

【評価方法】

Students will be evaluated based on attendance, class participation and written exams. The written exams will consist of comprehension questions based on the textbook and essays based on issues discussed in class, from the textbook and from films. Missing one exam will not affect your grade.

【テキスト】

The text for this class will be available from the instructor.

【参考文献】

アメリカ文学史

担当教員 追立 祐嗣

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

アメリカ文学の流れを概観し、主要作家の作品を鑑賞する。植民地時代・独立戦争時の歴史背景から始め、19世紀、特にアメリカン・ルネサンス期の作家・作品の講読を通して、「アメリカの良質な知的財産」に触れ、その理解を図る。

【授業の展開計画】

授業では、テキストの中の作家についての説明文と作品を、基本的に英語の原文を用いて読み進む。グループによる発表を中心に、個人指名による質問を含めた授業を行うので、必ず予習をしてくること。授業での質問に対して、ある回数以上答えられない者には、単位を与えない。

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

中間試験：33%、期末試験：各33%、グループ発表及び授業中の指名に対する応答や発言：34%

【テキスト】

プリント教材を使用する。

【参考文献】

横沢四郎他『概説アメリカ文学史』金星堂、1981年
その他、適宜紹介する。

イギリスの社会と文化

担当教員 ヒーター シンプソン

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

This class is intended to give students an opportunity to explore contemporary issues in British culture and society and reflect upon their relevance to contemporary societies elsewhere, particularly Okinawa and Japan.

【授業の展開計画】

In collaboration with the teacher, students will be expected to produce a bilingual group project and a final individual report (in English) focusing on an area of their choice.

A number of themes will be proposed, but these are highly negotiable.

【履修上の注意事項】

* For scheduling reasons, I would like to advise students who are taking this class not to register for 英語圏社会文化特殊講義.

* Communication of ideas will take precedence over medium of communication.

【評価方法】

Assessment will be based on the following:

* assignments relating to course content

* attendance and participation

【テキスト】

No textbook is prescribed for this course.

【参考文献】

イギリス文学史

担当教員 伊波 和正

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講座は、イギリス文学史上の重要な作家や作品を概観しながら、文学作品の背景にあるイギリスの社会や歴史についての知識を深め、文学史の流れを掴むことを目的とする。

【授業の展開計画】

第1週 授業説明

第2週～7週

- *下記の項目に沿ってイギリス文学史を学ぶ。
- *下記の項目について、受講者にグループで発表してもらう。
- *文学作品の読解や映画鑑賞を取り入れ、重要な作家や作品について詳しく学ぶ。

1. 古英語・中英語の文学
2. ルネサンスの散文と詩
3. 演劇が起こる
4. シェイクスピア
5. 清教徒革命まで
6. 王政回復期
7. 18世紀の散文、詩、劇

第8週 中間テスト

第9週～15週

8. 小説の誕生、そして成長
9. ロマン主義時代
10. ヴィクトリア朝期の詩と散文
11. ヴィクトリア朝の小説
12. 第二次大戦までの小説
13. 第二次大戦までの詩と劇
14. 戦後の文学

第16週 期末テスト

【履修上の注意事項】

- ①欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにする。
- ②遅刻（早退）2回で欠席1回の扱いになる。
- ③授業にはテキストと英和辞典を持参する。

【評価方法】

出席・授業参加10%、発表10%、中間テスト40%、期末テスト40%、

【テキスト】

川崎寿彦『イギリス文学史』成美堂

【参考文献】

参考文献は授業中に紹介する。

異文化理解 I

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、自分とは異なる文化を持つ様々な人たちのライフスタイルや価値観などを認識させ、異文化への気づきを促すこと及び異文化に対する理解能力を高めることを目標とします。日本人と外国人の生活や文化などの相違に気づかせるクイズ、グループワーク、映画鑑賞、調査発表などを通して異文化社会の多様性と現実を学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	異文化ってなに？
2	外国人が感じる日本の「ふしぎ」
3	英語で遊ぼう
4	ネイティブスピーカーの知らない英語
5	知っておきたい英語の知識
6	異文化の共通点・相違点を探そう！（1）
7	” （2）
8	常識から非常識へ
9	映画鑑賞：外国人のユーモア
10	学生発表・評価（1）
11	” （2）
12	” （3）
13	” （4）
14	” （5）
15	” （6）
16	” （7）

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席率及び授業参加態度（50%）、プロジェクト及び口頭発表（50%）により総合的に評価します。

【テキスト】

【参考文献】

異文化理解Ⅱ

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期の「異文化理解Ⅰ」に続き、本講義では、自分とは異なる文化を持つ様々な人たちのライフスタイルや価値観などを認識させ、異文化への気づきを促すこと及び異文化に対する理解能力を高めることを目標とします。日本人と外国人の生活などの相違に気づかせるクイズ、グループワーク、映画鑑賞、調査発表などを通して異文化社会の多様性と現実を学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	英語の「構え」でコミュニケーション
3	生活文化から生じるコミュニケーション・ギャップ
4	知っておきたい一般知識
5	映画鑑賞：異文化間に生じる諸問題を考えよう！（1）
6	” （2）
7	” （3）
8	” （4）
9	学生発表・評価・Q&A（1）
10	” （2）
11	” （3）
12	” （4）
13	” （5）
14	” （6）
15	” （7）
16	” （8）

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席率及び授業参加態度（50%）、プロジェクト及び口頭発表（50%）により総合的に評価します。

【テキスト】

【参考文献】

English Grammar I

担当教員 宮城 和文

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

テキスト『伝えるための英文法・英作文(Grammar for Communication)』（朝日出版）を主教材として用い、日常起こりうる会話場면을題材にしたコミュニケーション演習を行いながら英文法の基礎知識を身につけていく。ペアまたはグループによるスキット台本の作成・発表を行い、学んだ文法知識を実際の対話に活かすことができるようになる。

【授業の展開計画】

受講生の学習状況および学習内容の理解度に応じ、下記計画に変更が生じる場合があります。詳細については、開講日に説明します。

週	授 業 の 内 容
1	Week 1: Course Orientation, Unit 1-Initiating/closing a small talk
2	Week 2: Unit01 & 2-Emphatic Expressions, etc.
3	Week 3: Unit03-Conjunctions
4	Week 4: Unit04-Verbs: Past Tense
5	Week 5: Unit05-Verbs: Future Tense
6	Week 6: Unit06-Express Yourself with Sense Verbs
7	Week 7: Unit07-Causative Verbs
8	Week 8: Unit08-Reporting Verbs / Midterm Examination
9	Week 9: Unit09-Nouns
10	Week10: Unit10-Prepositions
11	Week11: Unit11-Adjectives & Adverbs to Express Your Feelings
12	Week12: Unit12-Verbs: Progressive
13	Week13: Unit13-Articles
14	Week14: Unit14-Sentence Structure: Word Order
15	Week15: Unit15-Sentence Structure: Adding More Information
16	Week16: Final Examination

【履修上の注意事項】

- 自主学習用のノートを一冊準備してください。
- 3分の1を超える欠席がある者は学則により「不可」となります。
- 遅刻、居眠り、理由不明の離席、私語または携帯電話・メールの受送信行為は、講義進行をおおいに妨げてしまうので厳に慎むこと。評価段階で減点対象となります。
- その他（開講日に詳細を説明します）

【評価方法】

- Review Quiz 40%
- Midterm/Final Examinations 30%
- Vocabulary Notebook 20%
- In-class Participation 10%

【テキスト】

『伝えるための英文法・英作文-Grammar for Communication-Weaving It All Together-』朝日出版(¥1,700)朝野書房にて販売します。

【参考文献】

開講日および、講義の中で適時紹介します。

English Grammar I

担当教員 津波 聡

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

中学校・高等学校で履修した文法事項を活用しながら復習するとともに定着を図ります。

【授業の展開計画】

授業前半は、ペア・グループでドリル、スピーキング活動を通して文法事項の復習を行います。授業の後半は指定のテキストの担当箇所の内容についてグループ発表と全体討議を行います。（授業前半と後半の内容を入れ替えることもあります）

【履修上の注意事項】

- (1) 指定の座席に座る
- (2) 辞書持参（できるだけ電子辞書を持参してください）
- (3) 遅刻、無断欠席をしない（遅刻2回で欠席1回と見なします）

【評価方法】

出席状況、発表、クイズ、提出物を総合的に評価します。

【テキスト】

授業の中で連絡します。

【参考文献】

授業の中で紹介します。

English Grammar I

担当教員 島袋 美智子

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

英語の理解、発話に文法は必須です。楽しく学べるグラマークラスを目指します。
まず基本的な文法事項を学び、ブレインストーミングを行い、練習問題をペアワーク、グループワークで行います。読み物を使用し単語力増強を図ります。リーディングにおける素早い理解力養成を目指します。

【授業の展開計画】

第1週 英語の文法について、単語増強について、学習メソッドについて説明。
(メソッドは良い学習習慣のために重要と考えますので最初の週をミスしないこと)
2-3週ごとにシラバスを配布しますので学習の予習に役立ててください。

第2週～7週、9週～15週

下記の文法事項について学び、様々な例文を発話する。練習問題はペア、もしくはトリオで行う。
Be 動詞と人称による変化、現在進行形、一般動詞の使い方、一般動詞の変化、否定形や疑問文の作り方、
Be動詞の過去形、一般動詞の過去形、過去進行形、現在完了形とは、受動態、能動態、未来形、
助動詞の使い方、など。
※質問はクラス内で随時受付ますので、疑問を残さないようにしてください。

第 8週 中間テスト (予定)

第16週 期末テスト (予定)

【履修上の注意事項】

1. 出席を重視する。
2. 遅刻は原則認めない。理由如何で9分まで認める。9分以降は欠席扱いとする。
3. 毎回宿題、課題を出すため、予習復習を心がける。宿題はやってきたものとして授業を進める。
4. 授業には講義用ノート、資料用ファイル、英和、和英辞書を持参する。
5. 単語、フレーズノートを作成すること。

【評価方法】

中間テスト30%、期末テスト30%、出席・授業参加40%

【テキスト】

1. "Essential Grammar In Use" with answers and CD-ROM Third Edition by Cambridge University Press
2. "Food In History" 初版 英宝社
3. 講師の選ぶ最近のニュース記事

【参考文献】

オンラインの文法サイトを紹介する予定です。

English Grammar II

担当教員 追立 祐嗣

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

英文法の基礎である「5文型」及び「句と節」を学ぶ。同時に、辞書の詳しい使い方を学ぶ。すなわち、複雑な英文でも、文構造を理解し、正しい辞書の使い方を理解することにより、どのような英文でも意味がわかるようになることが本講義の目的である。

【授業の展開計画】

指名による質問、問題の解答などを中心に講義を進めるが、重要なことは、「自分自身で文の構造を説明することができる」ことである。そのため、質問には「説明できるレベルまで理解していること」を示すように解答すること。

【履修上の注意事項】

2010年度前期にEnglish Grammar I（追立クラス）を受講した学生は、内容が重複するため、受講不可。

【評価方法】

中間試験：33%、期末試験：33%、個人指名による質問への解答など：33%

【テキスト】

プリント教材を使用する。

【参考文献】

特になし。

English Grammar II

担当教員 仲里 和花

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

目的：既習の基本的な文法事項を復習・再確認させ、練習問題等を通して、コミュニケーションの活用につなげる。

【授業の展開計画】

1. テキストは100unitで構成されている。各Unitを各学生に割り当て、割り当てられたunitの文法事項について各学生はプレゼンテーションを行う。テキストをそのまま説明してもよいし、その他の参考書を使って説明してもよい。
2. 授業では、文法の練習問題Practiceを全員で解答していく。各学生は、自宅で前もって、Practiceを解いてくること。
3. 講師が作成する練習問題を各自、解いて、全員で解答する。

【履修上の注意事項】

1. 授業には時間通りに出席すること。20分以上、遅刻した場合は欠席とみなす。授業日数の3分の1（約10回）以上、欠席した場合は、不可とみなす。
2. 英日・日英辞書を持参すること。
3. 携帯電話は、教室内ではスイッチを切っておくこと。机の上にも置かない。
4. 授業中、喫煙や携帯電話で話すために席を離れることを禁ず。

【評価方法】

授業態度	20%	優	80点以上
練習問題	15%	良	70点以上80点未満
プレゼンテーション	15%	可	60点以上70点未満
中間・期末試験	50%	不可	60点未満
	100%		

【テキスト】

PRACTICAL GRAMMAR Level 3 by John Hughes and Ceri Jones (HEINLE Cengage Learning)

【参考文献】

『総合英語』be update 鈴木希明 編著 (いいずな書店)

English Grammar II

担当教員 糸数 淳子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

English Grammar I で学んだ英文法の基礎に、重要な文法項目を追加導入し、練習問題を通して定着を図ります。

【授業の展開計画】

講義では文法項目に関する論点の説明があり、理解を確認するために練習問題を解くという作業を主に行います。又、理解を深める目的で定期的な課題やクイズを予定しております。

【履修上の注意事項】

Writing1で新垣先生のクラス履修の学生対象予定。
その他希望者は要相談。

【評価方法】

ミニテスト、期末テスト、提出物内容を主として評価。又、指名時の受け答え、授業への貢献度、出席率等も評価の対象となります。

【テキスト】

ハンドアウト

【参考文献】

授業の中で紹介します。

English for Special Purposes

担当教員 ーロビソソ サイソ

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

In this course the students will begin to develop their ability to discuss and debate topics of social importance in English.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	Part-time jobs - hot seat activity	17	Learning English - agree and disagree
2	Part-time jobs - mind map	18	Learning English - group then whole
3	Part-time jobs - research share	19	Smoking - hot seat activity
4	Part-time jobs - video	20	Smoking - mind map
5	Part-time jobs - agree and disagree	21	Smoking - research share
6	Part-time jobs - group then whole class	22	Smoking - video
7	Car parking - hot seat activity	23	Smoking - agree and disagree lists
8	Car parking - mind map	24	Smoking - group then whole class debate
9	Car parking - research share	25	Exam Preparation 1 - deciding topic,
10	Car parking - video	26	Exam Preparation 2 - preparing arguments
11	Car parking - agree and disagree lists	27	Exam Preparation 3 - paired practice
12	Car parking - group then whole class	28	Exam 1 (written)
13	Learning English - hot seat activity	29	Exam 2 (speaking)
14	Learning English - mind map	30	Exam feedback, extra topic hot seat
15	Learning English - research share	31	Extra topic agree/disagree, debate
16	Learning English - video		

【履修上の注意事項】

Students will be given homework to research the social topics ready for discussion. It is extremely important that students do adequate research in order to be able to debate effectively.

【評価方法】

Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance, and a final exam in which the students will have a ten-minute debate with the teacher.

【テキスト】

No textbook is prescribed for this course.

【参考文献】

English for Special Purposes

担当教員 -東恩納 ミシェル

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

Description: This course is designed to help students gain skills in self-expression in English. Students will learn the language of discussion and debate, gain presentation skills, and develop critical thinking skills. Timely topics will be discussed related to personal and social issues. These will include such topics as: life goals, ethics, friendship, relationships, family ties, work, equal rights, globalization, nationalism, environmental concerns, conflict and peace, and education.

【授業の展開計画】

Please note: As this is an oral ENGLISH class your instructor will speak only English during the class period. Please use English as much as possible in class. Please do not chat with your conversation partners in Japanese during the class period. Expect to spend several hours OUTSIDE of class time preparing for your presentations and exams, and doing listening work.

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to language of discussion
2	Introduction to language of discussion
3	topic selection
4	topic 1
5	topic 2
6	topic 3
7	speech preparation
8	speech presentations
9	topic 4
10	topic 5
11	topic 6
12	debate preparation
13	debate presentations
14	topic 7
15	group discussions preparation
16	group discussions presentations

【履修上の注意事項】

All notes for class will be taken by students provided orally by instructor.

【評価方法】

1. A Persuasive Speech 20%, 2. A Debate 20% 3. A group discussion 20%, 4. Daily attendance and participation 30% Listening homework 10% If you are absent 10 times you cannot pass this course and will have to repeat it. Being late to class three times equals one absence.

【テキスト】

Impact Issues 2 - 20 relevant issues for discussion in English
Pearson Longman
ISBN 978-962-01-9931-8

【参考文献】

1. Randall's Cyber Listening Lab <http://www.esl-lab.com/> 2. ELLLO <http://www.ello.org/english/home.htm> 3. VOA <http://www.voanews.com/english/news/> 4. National Geographic <http://www.nationalgeographic.com/>

English Writing I

担当教員 新垣 實

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講では、基本的な文法事項をおさえながら、その知識を応用して、英語による作文の練習をする。

【授業の展開計画】

テキストに沿って、毎回一章ずつ進み、月に一度のペースで確認小テストを行う。テキスト内で扱う項目は次の通り。

1. 「～すべきだ」の表現
2. 「言うまでもなく」などの不定詞の慣用表現
3. 「思う」のさまざまな表現
4. 「とても～なので」の表現
5. 「できるだけ～する」の表現
6. 関係代名詞の使い方
7. It is～to～ の使い方
8. 「～はどうですか」の表現
9. 分数や倍数の表現
10. 動名詞の使い方
11. 付加疑問の表現
12. 倒置
13. 比較構文
14. 比較級と最上級
15. 不定詞の用法

その他

【履修上の注意事項】

【評価方法】

課題の提出状況と内容、小テスト、学期末テストの結果で評価する。

【テキスト】

【参考文献】

『英文法解説』江川泰一郎著、金子書房

English Writing II

担当教員 ケイト オカラハン

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

English Writing II

担当教員 ーグレイ クエン ヒデオ

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

This course aims to elevate students' writing level. By this I mean two things in particular. I will attempt to aid willful participants in their development of both concise articulation and argumentation of their opinions and additionally challenge every last one of them to express themselves creatively. English is for fun. Let's play.

【授業の展開計画】

we will focus on three major assignments

- 1) self description
- 2) persuasive essay
- 3) creative fiction

週	授 業 の 内 容
1	Introduction: Nuts and Bolts
2	personal essay: rough draft
3	personal essay: edit and revision
4	personal essay: final draft
5	review
6	persuasive essay: preparation
7	persuasive essay: rough draft
8	persuasive essay: edit and revision
9	persuasive essay: final draft
10	review
11	fiction: character (draft)
12	fiction: setting (draft)
13	fiction: plot (draft)
14	fiction: edit and revision
15	fiction: final draft
16	hugs and giggles

【履修上の注意事項】

this is not a game

【評価方法】

you will be judged on your performance and your effort. (smiles don't hurt)

【テキスト】

Words In Motion by David Olsher; Oxford University Press

【参考文献】

N/A

English Writing II

担当教員 ティン・ホック レイフ・ルト

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

Better use English for communication.

Speak and understand English more easily and with confidence.

Be able to talk about yourself and your opinions in English.

Pronounce English more naturally.

Speak English in front of your classmates with fluency and confidence.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Week 1: 7 April. Introductions, Textbook Unit 0.
2	Week 2: 11 & 14 April, Unit 1 'Have you two met?'
3	Week 3: 18 & 21 April, Unit 2 'You must be excited'
4	Week 4: 9 & 12 May, Unit 3 'Going Places'
5	Week 5: 16 & 19 May, Unit 4 'I love that!'
6	Week 6: 23 & 26 May, Unit 5 'Why?'
7	Week 7: 30 May & 2 June, Unit 6 'What's it like there?'
8	Week 8: 6 & 9 June, Review Unit 1
9	Week 9: 13 & 16 June, Unit 7 'Do you remember when...?'
10	Week 10: 20 & 23 June, Unit 8 'Making Plans'
11	Week 11: 27 & 30 June, Unit 9 'What should I do?'
12	Week 12: 4 & 7 July, Unit 10 'Tell me a story'
13	Week 13: 11 & 14 July, Unit 11 'In my opinion'
14	Week 14: 18 & 21 July, Unit 12 'Looking Ahead'
15	Exam Week 25-29 July.
16	Make Up Classes in August.

【履修上の注意事項】

【評価方法】

Mid Term Test in Week 8

A final Exam.

Both tests will be oral and written.

【テキスト】

Chuck Sandy et.al English Firsthand New Gold Edition 2, Longman 2009

【参考文献】

English Reading I

担当教員 新垣 實

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

音読・速読の練習をする。

【授業の展開計画】

毎回前半は音読の練習、後半は速読の練習をする。

【履修上の注意事項】

1. 辞書を必ず持参すること。 2. 遅刻しないこと。 3. 無断欠席をしないこと。 4. 携帯電話の電源を切ること。 5. 居眠りをしないこと。 6. 私語をしないこと（私語をすると退室）。

【評価方法】

毎回音読をしてもらい評価するとともに速読のテストで評価する。

【テキスト】

プリント教材を準備する。

【参考文献】

その都度紹介する。

English Reading I

担当教員 津波 聡

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

精読と多読を通して語彙力と読解力の強化を図ります。

【授業の展開計画】

授業前半は指定教科書の精読、後半は多読を行います。

【履修上の注意事項】

- (1) 無断欠席、遅刻をしない
(遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします。1/3以上欠席の場合単位は認められません。)
- (2) グループごとに座る
- (3) 辞書持参

【評価方法】

授業態度（出席率、積極性、発言）、クイズ、提出物を総合的に評価します。

【テキスト】

授業の中で連絡します。

【参考文献】

English Reading I

担当教員 松田 節子

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では精読と概要把握のふたつの読み方を身につけることを大きな目標とする。題材は時事英語、比較文化、名スピーチ、沖縄の社会文化など幅広い分野のものを扱う予定である。授業では文法、表現、背景的知識などを詳しく見ながら正確な内容理解に努めるとともに、それぞれの題材について自分なりに考え、英語で意見、疑問、感想などを述べる練習をする。

【授業の展開計画】

授業開始時にシラバスを配布する。

【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、無断欠席をしないこと
- (2) 電子辞書を持ってくること
- (3) シラバスに基づき、必ず予習をして授業に臨むこと（予習には音読を含む）
- (4) 私語、居眠りをしないこと
- (5) 教室では携帯電話の電源を切ること

【評価方法】

出席、課題・提出物、授業態度、授業への貢献度、テストの結果など総合的に評価する。

【テキスト】

選定中

【参考文献】

適宜配布する。

English Reading II

担当教員 新垣 實

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

音読・速読の練習をする。

【授業の展開計画】

授業の前半は音読の練習、後半は速読の練習をする。

【履修上の注意事項】

1. 英和辞書を必ず持参すること。 2. 遅刻をしないこと。 3. 無断欠席はしないこと。 4. 携帯電話の電源は切ること。 5. 居眠りをしないこと。 6. 私語をしないこと（私語をすると即退室）。

【評価方法】

毎回の音読発表で評価するとともに2回の速読のテストをする。

【テキスト】

プリント教材を準備する。

【参考文献】

その都度紹介する。

English Reading II

担当教員 津波 聡

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期に引き続き多読・速読により語彙力、読解力を強化を図ります。

【授業の展開計画】

授業前半は、語彙力問題と様々なトピックの精読をペア・グループ単位で行い、授業後半は前期に引き続き個々のペースで多読を行います。

【履修上の注意事項】

- (1) 無断欠席、遅刻をしない
(遅刻2回で欠席1回とみなします。1/3以上欠席の場合単位が認められません。)
- (2) 授業で使用する本には何も書き込まない。
- (3) 読んだ本は授業後に必ず返却する(本を持ち帰らない)

【評価方法】

出席状況、クイズ、提出物(リーディングログ)を総合的に評価します。

【テキスト】

授業の中で連絡します。

【参考文献】

English Reading II

担当教員 松田 節子

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では前期のEnglish Reading Iに引き続き、精読と内容把握のふたつの読み方をさらに磨くとともに、多読にも挑戦する。題材は、比較文化、英米の言語文化、沖縄の社会文化など、幅広いものを扱う予定である。授業では文法、表現、背景的知識などにも目を向けながら、それぞれの題材について、要点、意見、疑問、感想などを英語で述べる練習をする。

【授業の展開計画】

授業開始時にシラバスを配布する。

【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、無断欠席をしないこと
- (2) 電子辞書を持ってくること
- (3) シラバスに基づき、必ず予習をして授業に臨むこと（予習には音読を含む）
- (4) 私語、居眠りをしないこと
- (5) 授業中は携帯電話の電源を切ること

【評価方法】

出席、宿題、授業態度、授業への貢献度、テストの結果などから総合的に評価する。

【テキスト】

授業開始時に指示する。

【参考文献】

適宜配布する。

インターネット英語

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

My main aim is to challenge students to become actively involved in the English world of the Internet. Students will be expected to take the initiative in writing blogs, creating their own pages, listening to podcasts, chatting with others, posting on bulletin boards, and choosing their own creative ways to be involved on the Internet.

【授業の展開計画】

Students will work individually but will interact with classmates and outsiders through the Internet. Here are some of the activities that we will do during class:

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to class, opening new e-mail accounts, setting up group pages, etc.
2	Setting up one's own webpage, making contacts
3	Social networking (Facebook / MySpace)
4	Reading and writing blogs (Blogster.com, etc.)
5	Posting on bulletin boards
6	On-line chat (OIU VIVA site, etc.)
7	StoryCorps (Listening to stories)
8	Listening to and participating in podcasts
9	Listening to and participating in podcasts
10	Watching English videos (YouTube)
11	Watching English videos (YouTube)
12	On-line English Tests (TOEIC, TOEFL, etc.)
13	On-line English Tests (TOEIC, TOEFL, etc.)
14	Quizlet, Rikai.com, and other sites for studying English
15	On-line vocabulary study and English games
16	English study through song lyrics

【履修上の注意事項】

Students are assumed to have a basic understanding of how to use the Internet, but instruction will be provided if needed. All work should be done in English. Visiting non-English sites will result in an automatic deduction in the final grade.

【評価方法】

On-line folders will be evaluated three times during the semester, and the three grades will be averaged together to calculate the final grade. Students are expected to submit a 100-word absence report for each class missed, but still must attend more than 75% of all classes. Students are reminded to save a copy of everything that they post to the "My Posts" folder in their yahoo.com mail account page.

【テキスト】

No textbook is required for this class. However, students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class.

【参考文献】

The address for our group page is as follows:
<http://groups.yahoo.com/group/OIUInternetEnglish/>

英語音声学

担当教員 李 イニッド

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

This course combines theory and practice in articulatory phonetics with a focus on the basic concepts of English speech sounds.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	The Vocal Organs; Sound Classes
3	Consonants: Places of Articulation
4	Consonants: Manners of Articulation
5	Vowels: Articulation & Classification
6	The Transcription of English Vowels & Consonants
7	Consonant & Vowel Charts; Midterm Exam
8	The Syllable
9	Accent
10	Rhythm
11	Coarticulation & Other Phonological Processes
12	Intonation (1)
13	Intonation (2)
14	World Englishes (1)
15	World Englishes (2)
16	Final Exam

【履修上の注意事項】

No particular requirements.

【評価方法】

Attendance, Class Participation & Homework (50%). Mid-term & Final Exams (50%).

【テキスト】

To be announced in class.

【参考文献】

英語学概論

担当教員 新垣 實

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

英語学概論とは、アメリカ人やイギリス人が乳幼児のころから習い覚える英語の言語習慣や規則の体系を音声、語彙、文、意味などの角度から総論的に勉強する学問分野です。英語を単なるコミュニケーションツールとしてではなく、そのしくみを科学的に分析し記述する方法論を学び、英語に対する言語学的理解を深めることを目指します。

【授業の展開計画】

第1週 言語と言語学
第2週 英語と英語学
第3週～第4週 音韻論
第5週～第7週 形態論
第8週 中間試験
第9週～第11週 統語論
第12週 第13週 意味論
第14週 語用論
第15週 英語の歴史
第16週 期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

受講態度、宿題、中間・期末、出欠などを総合的に勘案し評価する。

【テキスト】

プリント教材などを準備

【参考文献】

参考図書もそのつど紹介します。

英語学特殊講義

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講義では社会言語学を立脚点とし、ことばの日常的使用に注目する。多言語社会、ダイグロシア、言語の死、ジェンダーと言語、ポライトネス、etc.を取り上げる予定である。また、近年の言語人類学の知見も取り入れる可能性もあり、特殊講義らしい多様な内容になるように現在準備中である。シラバス執筆時（2012年1月）から開講時（2012年9月）までの間に、興味深いテーマが見つければ随時取り入れて行きたい。尚、前年度は、参加者の熱意が高かったこともあり、『社会言語学入門』『世界のグロービッシュ』『外国語学習の科学』の3冊を読みこなし、発表も行ってもらった。

【授業の展開計画】

開講時まで塾考するためTBA。尚、参加者数に応じて授業形式を柔軟に変えることもある。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

①出席率 ②課題 ③発表 ④授業態度

【テキスト】

現在選定中につきTBA。開講時に指示します。尚、図書館の「指定図書」も随時参考にして下さい。

【参考文献】

東 照二 2009『社会言語学入門<改訂版> 生きた言葉のおもしろさに迫る』東京：研究社 ¥2,450.

原 聖（編）2010『言語的多様性という視座（ことばと社会）』東京：三元社. ¥2,415.

リチャード・E・ニスベット 2004『木を見る西洋人 森を見る東洋人』ダイヤモンド社. ¥2,100（税別）

英語教育学

担当教員 野口 正樹

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講義は、3年次履修の英語科教育法Ⅰの introduction になります（従って、英教法履修予定者は“原則”受講することが望ましいです）。英語科教育の現状を overview し、問題点を把握します。そして、今後目指すべき英語科教育の方向性を明らかにします。講義の前半45分は指定 group が略式 presentation を行います。「わかる」段階に留まらず、「使える・説明できる」段階を模索します。後半45分は、授業者が例示や解説を行い、受講者の疑問に答えます。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・途中退出は一切認められません。正当な理由がある場合、事前に必ず mail 連絡下さい。
- ③ 課題は毎時期限までに完成させます。
- ④ 携帯電話の電源は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② presentation（group 毎）
- ③ 個人・相互評価
- ④ 質疑応答
- ⑤ 課題
- ⑥ 受講姿勢

【テキスト】

講義内で連絡します。

【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

英語教育教材研究

担当教員 野口 正樹

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講義は、英教法Ⅰの実践編及び英教法Ⅱの補足編になります。従って、英教法履修者は、“原則”履修することが望ましいです。文部科学省検定中学・高校教科書を取り上げ、抽出した各 section/lesson の題材を分析し、理想的な教材を作成します。flash/picture cards の作り方、target sentences の導入・理解・運用を目指す各種活動、復習・定着・まとめの ideas、黒板・教室の使い方、音楽・照明・PC・screen の活用等、教室内外のあらゆる素材を利用して、学習者の異文化コミュニケーション能力と心の豊かな人格の陶冶を図ります。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡ください。
- ③ 課題は、期限までに毎時完成させましょう。
- ④ 携帯電話は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② presentation
- ③ 個人・相互評価
- ④ 質疑応答
- ⑤ 課題
- ⑥ 受講姿勢
- ⑦ 教材作成

【テキスト】

講義内で連絡します。

【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

英語圏社会文化特殊講義

担当教員 ヒーター シブソン

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

This class is intended to give students an opportunity to explore and question issues relating to society and culture in parts of the world outside Britain and the United States where the English language serves some function.

【授業の展開計画】

In collaboration with the teacher, students will be expected to produce a bilingual group project and a final individual report (in English) focusing on an area of their choice.

A number of themes will be proposed, but these are highly negotiable.

【履修上の注意事項】

* For scheduling reasons, I would like to advise students who are taking this class not to register for イギリスの社会と文化.

* Communication of ideas will take precedence over medium of communication.

【評価方法】

Assessment will be based on the following:

* assignments relating to course content

* attendance and participation

【テキスト】

No textbook is required for this class. Instead, students will be expected to find information from a variety of sources.

【参考文献】

英語情報処理 I

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

This is an introductory course in information processing for English majors. The language of instruction in this course is primarily English, and secondarily Japanese. Wherever possible, English language versions of software are used. In this course we will be introduced to computer spreadsheets, presentation techniques using PC software, databases, and word processing for academic and business purposes.

【授業の展開計画】

This course provides English major students with the fundamentals of:

- 1) computer hardware
- 2) operating systems and user interfaces
- 3) file systems
- 4) networking
- 5) eMail and social networking
- 6) computer graphics
- 7) eLearning fundamentals
- 8) deep Internet searching and data mining

【履修上の注意事項】

As each class session builds upon what was presented in the previous one, class participation is essential in this course. Students who miss classes are responsible for getting their own lecture notes.

【評価方法】

Mid-term exam: 40%

Final report: 60%

【テキスト】

大串夏身、文科系学生のインターネット検索術、青弓社、2001年

【参考文献】

Any good paper or electronic English-Japanese / Japanese-English dictionary.

英語情報処理 I

担当教員 -真島 知秀

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、資料収集、まとめ、発表などに必要なパソコン操作の基本技能を習得することを目的に、Word 2007, Excel 2007, PowerPoint 2007を使って実践的な演習を行います。また課題をこなす中で英文のブラインドタッチのマスターおよび入力速度の向上も図ります。その他パソコンを使った総合的な演習を通じて、学生生活に必要な情報処理技術を身に付けます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	大学メールおよびシステムの活用
3	コンピュータの基礎：文字入力
4	コンピュータの基礎：フォルダ・ファイル
5	ネットワーク利用：インターネット利用
6	ネットワーク利用：インターネット上のファイルやソフトの利用
7	ネットワーク利用：メールの利用
8	ネットワーク利用：情報モラル
9	Word 2007：基本操作
10	Word 2007：書式設定基礎
11	Word 2007：書式設定応用
12	Word 2007：表・図・写真の追加(1)
13	Word 2007：表・図・写真の追加(2)
14	Word 2007：演習
15	Word 2007：演習
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・演習ごとに必要な項目を講義するため、授業計画内容は前後する場合があります。
- ・具体的な課題を一つ一つこなしていくことがコンピュータ技能の習得につながります。また継続した学習が求められますので出席も重視されます。毎時の課題をこなすだけでなく、いかにして効率よく正確に作業を行えるかを常に意識することが大切です。自主的・積極的な学習態度と、パソコン操作の疑問点について自ら調べたり周りに質問したりする姿勢が求められます。

【評価方法】

- ・評価は毎時の課題提出と期末試験と出席が主な対象となります。
- ・一週間に1回しか授業がないので（全15回の授業）必ず全ての授業を受けてください。5回以上休んだ時点で期末試験の受験資格を失います。

【テキスト】

矢野文彦監修「情報リテラシー教科書 -インターネット・Word・Excel・PowerPoint-」オーム社開発部

【参考文献】

英語情報処理 I

担当教員 真喜志 満

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講座は、キーボード練習によるブラインドタッチをマスターすることから始め、最終的には外資系企業など国際的環境の職場で実際に作成する英文書類を作成する能力を身につけることを目的とする。進め方は、実際の書類を教材に演習を行っていく。使用ソフトはMicrosoft WordやPowerPointが中心である。演習にあたっては、常に10本の指をフルに使ったブラインドタッチの基本を忘れないようにすることが大切である。単に与えられた教材を真似て作るだけでなく、全体のフォーマットや状況を考えながら、習得することが重要である。

【授業の展開計画】

1週目	講義内容の説明、導入
2週目	ブラインドタッチ演習・初級～中級
3週目	ブラインドタッチ演習・上級
4週目	入力速度測定
5週目	段組のある雑誌記事での入力演習
6週目	学級プロジェクトその1〈パワーポイント使用〉
7週目	学級プロジェクトその2〈パワーポイント使用〉
8週目	文書作成：ビジネスレター、英文履歴書
9週目	実地的ビジネスレターの作成
10週目	筆記体からのビジネスレターの作成
11週目	メモ書きを基にした実地的書類作成
12週目	和文英訳をしながらのレター作成
13週目	ワード機能をフルに使った演習
14週目	英文履歴書等の課題の仕上げ・印刷
15週目	期末試験
16週目	提出物・成績最終確認

【履修上の注意事項】

やむを得ず欠席する場合は、所定の欠席届を提出のこと。ただし、欠席届の理由が正当と認められない場合もある。病院や薬局の領収証の写しを提出した場合は「病欠」と認められる。顧問の教官の書面を提出したものについては、「公欠」と認められる。

【評価方法】

出席30%、入力速度測定10%、作成文書や宿題等の提出物50%、期末試験10%、その他+/-5%の配分で評価する。その他とは、授業への貢献度や態度などを含む。演習を中心の授業なので、評価の配分は試験より実践のほうがはるかに高い。学生には、とにかく毎回出席して、与えられた課題をこなし提出することが望まれる。

【テキスト】

使用せず。毎回練習用プリントを配布し、説明の後演習を行う。

【参考文献】

英語情報処理Ⅱ

担当教員 ダグラス トライスカット

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

This is an introductory course in information processing for English majors. The language of instruction in this course is primarily English, and secondarily Japanese. In this course we will be introduced to computer spreadsheets, database management software, presentations techniques using presentation software, and word processing for both business and academic purposes.

【授業の展開計画】

This course provides English major students with the fundamentals of:

- 1) spreadsheet software
- 2) database management software
- 3) presentations techniques using presentation software
- 4) word processing for business
- 5) word processing for academic purposes

【履修上の注意事項】

As each class session builds upon what was presented in the previous one, class participation is essential in this course. Students who miss classes are responsible for getting their own lecture notes

【評価方法】

- 1) a spreadsheet file - 5%
- 2) a database file - 10%
- 3) one presentation using Powerpoint - 40%
- 4) one academic report using Word - 40%

There will also be one quiz on netiquette, copyright infringement, and privacy. - 5%

【テキスト】

Maran, Ruth. Office 2007 Simplified

【参考文献】

Any good paper or electronic English-Japanese / Japanese-English dictionary.

英語情報処理Ⅱ

担当教員 真喜志 満

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講座の主な目的は、外資系企業など国際的環境の職場で実際に作成する書類を英語で作成する能力を身につける為のコースである。進め方としては、実際の英文書類を教材として、作表やグラフ作成などの演習を行っていく。インターネットも活用するが、使用ソフトはMicrosoft Excelが中心である。演習にあたっては、単にワープロ感覚で作表するのではなく、様々なデータ処理機能を活用しながら、書類を作成する能力を身につけることが大切である。

【授業の展開計画】

- 1週目 講義内容の説明、導入
- 2週目 アドレス帳の作成
- 3週目 単語帳の作成とインターネットの活用
- 4週目 日程表の作成
- 5週目 作表：Company's Report Their Earnings + Monthly Income
- 6週目 作表：Nikkei 225 Futures
- 7週目 作表+グラフ作成：Statistics on Japanese Population + 人生カレンダー
- 8週目 作表+グラフ作成：Expenditure Analysis
- 9週目 複雑な体裁を整える演習：Voice Messaging Matrix
- 10週目 作表：Import Calculation <前編>
- 11週目 作表：Import Calculation <後編>
- 12週目 作表：成績表<前編>
- 13週目 作表：成績表<後編>
- 14週目 特別講義：試験の傾向と対策 + 成績シミュレーション + 授業評価アンケート
- 15週目 期末試験
- 16週目 特別講義：提出物・成績最終確認・追加作業

【履修上の注意事項】

基礎的なキーボード入力ができることを前提としているので、履修する学生は情報基礎Ⅰを修了していることが望ましい。欠席する場合は、できる限り事前に所定の欠席届を提出すること。急な病欠などは仕方がないので、翌週までに医療機関にかかったことを証明する書面をコピーして欠席届に添付して提出すること。それ以外は、「病欠」とは認められない。「公欠」についても、必ず顧問の教官から出された書面を添付して提出すること。出欠は授業開始と同時に取るので、遅刻をしないよう心がけること。

【評価方法】

出席35%、提出物35%、宿題15%、期末試験15%、その他+/-5%の配分で評価する。その他とは、授業への貢献度や態度などを含む。実践的演習を中心に行う授業なので、評価の配分は試験よりも日頃の実践のほうが高い。また、提出期限を過ぎてからの提出物については、一日の遅れにつき1.5ポイントの減点となる。従って、課題を貯めて、期末に提出しても意味がない。とにかく学生は毎回出席して、授業に集中し、与えられた課題をこなして期限内に提出することが望まれる。

【テキスト】

使用せず。毎回練習用プリントを配布し、説明の後演習を行う。

【参考文献】

図書館所蔵の 各種Microsoft Office マニュアル本

英語情報処理Ⅱ

担当教員 真島 知秀

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、前期の英語情報処理Ⅰで学んだパソコンの基本操作から発展させ、資料収集、まとめ、発表などに必要な関連ソフトの習得を目指します。またインターネットを活用した各種ツールを紹介しながら、より実践的な演習を行います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	Excel：基本操作
3	Excel：関数の利用
4	Excel：見やすい表の作成
5	Excel：グラフの利用
6	Excel：少し高度な関数
7	Excel：データベース
8	Excel：知っていると便利な機能
9	Excel：総合演習
10	PowerPoint：プレゼンテーション
11	PowerPoint：スライド作成
12	PowerPoint：スライドの組み立て
13	PowerPoint：スライドの仕上げ
14	PowerPoint：スライド提示
15	PowerPoint：総合演習
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・演習ごとに必要な項目を講義するため、授業計画内容は前後する場合があります。
- ・基礎的なキーボード入力ができることを前提としているので、履修する学生は情報基礎Ⅰを修了していることが望ましいです。
- ・毎時の課題をこなすだけでなく、いかにして効率よく正確に作業を行えるかを常に意識することが大切であるためパソコン操作の疑問点について自ら調べたり周りに質問したりする姿勢が求められます。

【評価方法】

- ・評価は毎時の課題提出と期末試験と出席が主な対象となります。
- ・一週間に1回しか授業がないので（全15回の授業）必ず全ての授業を受けてください。5回以上休んだ時点で期末試験の受験資格を失います。

【テキスト】

矢野文彦監修「情報リテラシー教科書 -インターネット・Word・Excel・PowerPoint-」オーム社開発部

【参考文献】

英語情報処理Ⅲ

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業では大学で必要な情報処理の基礎知識と技能を身につける。情報アーキテクチャと情報組織化を基礎としたウェブサイトを構築する方法を学習し、イントラネットやインターネットでユーザに情報を提供する為に必要な知識と技術を習得する。授業でウェブサイトを実際に開発しながら情報処理術を学ぶ。

【授業の展開計画】

1. ウェブサイトのしくみ
2. 情報アーキテクチャの概要 1
3. 情報アーキテクチャの概要 2
4. 情報の組織化
5. ナビゲーションの設計
6. ラベリングシステム
7. イラストレーションソフト入門
8. 画像処理ソフト入門 1
9. 画像処理ソフト入門 2
10. HTML入門 1: Basic Tags
11. HTML入門 2: Images
12. HTML入門 3: Tables
13. HTML入門 4: Links
14. HTML入門 5: Lists
15. HTML入門 6: Page Layout

【履修上の注意事項】

課題は全部提出すること。無断欠席に注意。

【評価方法】

テスト 20%

課題: Web page project - 80%

【テキスト】

Rosenfeld and Morville共著, 篠原稔和 監訳、情報アーキテクチャ入門、1998, オライリー・ジャパン.

【参考文献】

* HTMLタグ辞典

* Steve Krug, ウェブサイトユーザビリティの法則、2001, SoftBank Publishing.

* Jesse James Garrett, The Elements of User Experience, New Riders, 2003.

英語情報処理Ⅳ

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業では大学で必要な情報処理の基礎知識と技能を身につける。情報アーキテクチャと情報組織化を基礎としたウェブサイトを構築する方法を学習し、イントラネットやインターネットでユーザに情報を提供する為に必要な知識と技術を習得する。授業でウェブサイトを実際に開発しながら情報処理術を学ぶ。

【授業の展開計画】

1. 検索システムとウェブサイト
2. ユーザの調査
3. 概念によるデザイン
4. 制作と作業工程
5. アーキテクチャの事例研究
6. 高度なHTMLテクニック
7. イラストレーション作成と画像処理テクニック
8. Flashアニメーションテクニック
9. Javascript入門
10. データベース入門 1
11. > CFML入門
12. ウェブページ作成テクニック 1
13. ウェブページ作成テクニック 2
14. ウェブページ作成テクニック 3
15. ウェブページ作成テクニック 4

【履修上の注意事項】

課題は全部提出すること。無断欠席に注意。

【評価方法】

Student will be evaluated on their contributions to a group website construction project. The project will be evaluated on: 1) content - 20%, 2) graphic design - 20%, 3) usability, ease of navigation - 20%, 4) information architecture - 20%, 5) interactivity - 20%

【テキスト】

- ・ J. M. スプール、et. al.、Webサイトユーザビリティ入門、2002、東京電機大学出版局。
- ・ ヤコブ・ニールセン、ユーザビリティエンジニアリング原論、2002、東京電機大学出版局。

【参考文献】

- ・ Rosenfeld and Morville共著、篠原稔和 監訳、情報アーキテクチャ入門、1998、オライリー・ジャパン。
- ・ Jesse James Garrett, The Elements of User Experience, New Riders, 2003.
- ・ Steve Krug, ウェブサイトユーザビリティの法則、2001, SoftBank Publishing.

英米演劇概論

担当教員 一城間 幹夫

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講では、英米の演劇史の流れを概観しながら、代表的な作品をいくつか取り上げる。具体的な作品読解を通して、物語の舞台となっている時代の社会、生活、文化について理解を深め、作品それぞれの魅力を味わう。

【授業の展開計画】

- 1週目 講義内容の説明
- 2週目 イギリス中世演劇
- 3～5週目 シェイクスピアと大衆演劇
- 6～7週目 サヴォイ・オペラ
- 8～10週目 風習喜劇：Oscar Wilde の作品読解
- 11週目 アメリカ大衆演劇
- 12～14週目 アメリカ家庭演劇：Tennessee Williams の作品読解
- 15週目 現代演劇

【履修上の注意事項】

作品読解の際には、グループ発表の形式を取ります。

【評価方法】

学期末試験60%、授業への貢献度40%

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

英米詩概論

担当教員 石川 隆士

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講では、いかに詩が身近なものであるかを実感してもらい、世界理解と自己表現のための生きたスキルとして身に付けてもらうことを目的とする。

【授業の展開計画】

実際に詩編の読解に積極的に取り組み、自分なりの視点からの意見を発表し、意見交換することを通じて深い理解につなげていく。

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	History of Poetry I
3	History of Poetry II
4	Poety Case Study I
5	Poety Case Study II
6	Poety Case Study III
7	Wrap-up I
8	Review of Term Paper I
9	Presentation & Discussion I
10	Presentation & Discussion II
11	Presentation & Discussion III
12	Presentation & Discussion IV
13	Presentation & Discussion V
14	Presentation & Discussion VI
15	Wrap-up II
16	Review of Term Paper II

【履修上の注意事項】

参加重視

【評価方法】

Quiz 20%

Presentnation&Discussion 50%

Term Papers 30%(15%×2)

【テキスト】

Handout

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

英米小説概論

担当教員 吉田 兼次

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

英米文学概論

担当教員 追立 祐嗣

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

英語で書かれた文学作品の鑑賞を通して、英米の文学、文化、社会、歴史に関する基礎的な知識を身につけるとともに、実際の作品に触れることにより、「文学とは何か」を考えることを目標とする。今年度は、小説やエッセイなどの講読を通して、「アメリカ黒人文学」という「特殊」なテーマを取り上げ、考察する。また、現代沖縄文学の作品も適宜取り入れ、アメリカ黒人文学との共通点を探ることにより、文学の「普遍性」を考察する。

【授業の展開計画】

毎週、作品のあらすじやテーマなどを中心に、グループ発表とディスカッションにより授業を進める。予め指名されたグループは、作品のあらすじ、テーマ、議論すべき問題点などをまとめた「発表報告書」を作成し、全員に配布すること。グループの発表を基にして、全員が作品について議論を行う。作品は、全員必ず読んでおくこと。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

中間試験：33%、期末試験：33%、グループ発表・発言など34%

【テキスト】

主にプリント教材を用いる。

【参考文献】

『アメリカ黒人の歴史』本田創造（岩波新書）、その他、適宜紹介する。

英米文学特論

担当教員 山本 伸（世話役：追立 祐嗣）

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

英米文学を非英米の視点（カリブ海地域、他）から眺めた時に見えてくる現代世界の構造的本質について、観念的、文学的アプローチと歴史的、文化人類学的アプローチを統合することで立体化した総括的概念としてとらえることを第一義とする。第二義的には、視点をさらに日本そして沖縄に絞り込んでいくことで現代世界と自己の関係性について主観的、客観的に考える。

【授業の展開計画】

- 1回：導入（授業の概要および担当者について／現代カリブ文学概観）
- 2回：歴史と教育
- 3回：歴史と教育 from Okinawan Perspective
- 4回：社会・人種・アイデンティティ
- 5回：社会・人種・アイデンティティ from OP
- 6回：文化とコミュニティー
- 7回：文化とコミュニティー from OP
- 8回：文化と宗教
- 9回：文化と宗教 from OP
- 10回：クレオリズムとグローカリズム
- 11回：クレオリズムとグローカリズム from OP
- 12回：平和
- 13回：平和 from OP
- 14回：カリブ文学研究の現代的意義／まとめ
- 15回：質疑応答／意見交換
- 16回：試験

【履修上の注意事項】

毎回講義内容を沖縄の視点に引きつけた短文レポートを提出してもらいますので、ぜひモチベーションを上げておいてください。

【評価方法】

出席50% 提出物25% 試験25%

【テキスト】

『カリブ文学研究入門』（世界思想社）

【参考文献】

『世界の黒人文学』（鷹書房弓プレス）
『二〇世紀アメリカ文学を学ぶ人のために』（世界思想社）

Oral Communication I

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

This course is designed to help first year students improve their English speaking and listening skills and their overall ability to communicate.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Course Registration and Introduction
2	Unit 1 & Listening Tests
3	Unit 2 & Listening Tests
4	Unit 3, Presentations & Listening Tests
5	Unit 4 & Listening Tests
6	Unit 5 & Listening Tests
7	Unit 6 & Listening Tests
8	Unit 7, Interviews & Listening Tests
9	Unit 8 & Listening Tests
10	Unit 9 & Listening Tests
11	Unit 10, Presentations & Listening Tests
12	Unit 11 & Listening Tests
13	Unit 12 & Listening Tests
14	Unit 13 & Listening Tests
15	Unit 14, Presentations & Listening Tests
16	Interview Tests

【履修上の注意事項】

The class will be conducted primarily in English. Students should come to class with their textbooks and prepared to interact with the teacher and other students using English.

【評価方法】

Regular attendance is extremely important in this class. Students will be evaluated based on their attendance, class participation and a variety of listening exams. Students should note that there are no makeup exams for listening exams that they might miss. Missing one listening exam, however, will not have any impact on one's final grade.

【テキスト】

Shimizu, P. & Gaston, B. Marathon Mouth Plus, Intercom Press (Available at Asano Bookstore)

【参考文献】

Oral Communication I

担当教員 -ライト ヒレル アレン

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

The aim of this course will be for students to improve their ability to communicate in English. In order to maximize speaking time, students will do some of their work in pairs or small groups. I expect students to refrain from speaking in Japanese and to speak English as often as possible.

【授業の展開計画】

Classes will consist of textbook exercises and so-called "language gap" activities, which will take place in pairs or small groups. The group activities depend on active student participation, so I expect students to be enthusiastic about speaking English.

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to the course, self-introductions, whole group activity
2	Extemporaneous speeches (for evaluation purposes)
3	Listening exercise & Q & A
4	Reading story aloud & Listening comprehension exercise
5	Vocabulary exercises (Mon - everyday items) (Thur - foods)
6	Comparing Cultures (Western Horoscope) (Chinese Horoscope)
7	Role Play: Dating & Personality
8	Sports - Prepared speech (Mon) Q & A (Thur)
9	Occupations - Film "Palookaville"
10	Weather - Extemporaneous speech
11	Travel (abroad) & (in Japan)
12	Restaurants & Role playing activity
13	Environment & Ecology
14	Stereotypes (Ethnicity) & (Gender)
15	Graded Conversations (pairs or small groups)
16	Final Exam (Listening Comprehension)

【履修上の注意事項】

I believe in creating a relaxed atmosphere in the classroom. Unnecessary tension inhibits conversation and participation. Don't be shy. Don't be afraid to ask questions or make mistakes. Don't be afraid to have a different opinion from the teacher..

【評価方法】

Students will be evaluated based on attendance, in-class participation, in-class speeches, homework, graded conversations & listening comprehension test.

【テキスト】

Marathon Mouth by David Kehe and Peggy Dustin Kehe. Pro Lingua Associates. ISBN 0-86647-189-8. In addition, students should bring a B5 notebook and an electronic dictionary to every class.

【参考文献】

Oral Communication I

担当教員 ジョナサン ハッチャー

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

This is an oral English course, so the emphasis will be on speaking and listening skills. There will also be some work on presentation skills. The main aim is, by the end of the course, for students to be able to communicate in English more fluently and naturally. Students will also feel more confident speaking English in front of others, as well as gaining a deeper understanding of general communication skills.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	Introduction	17	The Family
2	Ice-Breaking Activities	18	Work
3	Ice-Breaking Activities	19	City Life
4	Pronunciation Focus	20	Beliefs
5	Pronunciation Focus	21	The Future
6	Pronunciation Focus	22	Transportation
7	Pronunciation Focus	23	Vices
8	Vocabulary-Building Activities	24	Marriage
9	Vocabulary-Building Activities	25	Animals
10	Usage Activities	26	Computers
11	Usage Activities	27	The Generation Gap
12	Friends	28	Travel
13	Free Time	29	Textbook Review
14	The Past	30	Final Test Preparation
15	Mi-Term Test Preparation	31	Final Test
16	Mid-Term Test		

【履修上の注意事項】

Class is conducted in English.

【評価方法】

75% In-class performance, attitude and improvement
15% Mid-term test
15% Final test

【テキスト】

Communication Strategies 1 by David Paul (Cengage Learning)

【参考文献】

Oral Communication I

担当教員 ーロビソソ サイソ

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

This course is designed to improve students basic listening, speaking and communication skills.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	Orientation, basic self-introductions -	17	Rooms - detailed speaking activity
2	Basic self-introductions - structured	18	Talking about the past - introduction,
3	Basic self-introductions - free speaking	19	Talking about the past - structured
4	Personal Information - introduction,	20	Talking about the past - free speaking
5	Personal Information - structured	21	Talking about the past - short present
6	Personal Information - free speaking	22	Talking about the future - introduction,
7	Can and Can't - introduction, listening	23	Talking about the future - structured
8	Can and Can't - structured speaking	24	Talking about the future - free speaki
9	Can and Can't - free speaking practice.	25	Talking about the future - short pres
10	Time - listening, structured speaking	26	Exam preparation 1
11	Daily Activities - intro, listening	27	Exam preparation 2
12	Daily Activities - structured speaking	28	Exam preparation 3
13	Daily Activities - free speaking	29	Exam day 1 (written)
14	Rooms - introduction, listening	30	Exam day 2 (speaking)
15	Rooms - structured speaking practice	31	Exam feedback and comments, final spe
16	Rooms - free speaking practice		

【履修上の注意事項】

Regular attendance is extremely important in this class, and students must bring their textbook with them to class.

【評価方法】

Students will be evaluated based on attendance, effort in class, listening tests and speaking exam.

【テキスト】

Fifty Fifty Book One (Available in the campus bookstore)

【参考文献】

Students will be expected to download various listening materials from the CALL Lab.

Oral Communication I

担当教員 ヒーター シンプソン

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

In this course I aim to encourage students to become more confident speakers of English. In doing so I use a variety of low-stress activities, usually involving pair or group work, and co-operative (and hopefully fun) activities which require students to use the language they know.

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

This is likely to be based on attendance and participation, informal interviews, and homework assignments designed to prepare for or reinforce class activities.

【テキスト】

Marathon Mouth Plus. Paul Shimizu & Brent Gaston

【参考文献】

Oral Communication II

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

This course is designed to help students improve their speaking and listening skills and their overall ability to communicate.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Course Registration and Introduction
2	Useful English
3	Introductions
4	What Do You Do?
5	Day to Day
6	Where Are We?
7	Talking about Families
8	What Are You Interested In?
9	Talking about the Past
10	Looking at People
11	This One? That One?
12	I've Got a Feeling
13	Let's Go Shopping
14	That's Entertainment
15	Dreams and Fantasies
16	Interview Tests

【履修上の注意事項】

The class will be conducted primarily in English. Students should come to class with their textbooks and prepared to interact with the teacher and other students using English.

【評価方法】

Regular attendance is extremely important in this class. Students will be evaluated based on their attendance, class participation and a variety of listening exams. Students should note that there are no makeup exams for listening exams that they might miss. Missing one listening exam, however, will not have any impact on one's final grade.

【テキスト】

Thompson, P. & Chase, C. Natural Speaking, Intercom Press (Available at Asano Bookstore)

【参考文献】

Oral Communication II

担当教員 ジョナサン ハッチャー

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

This is an oral English course, so the emphasis will be on speaking and listening skills. There will also be some work on presentation skills. The main aim is, by the end of the course, for students to be able to communicate in English more fluently and naturally. Students will also feel more confident speaking English in front of others, as well as gaining a deeper understanding of general communication skills.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	Introduction	17	The Family
2	Ice-Breaking Activities	18	Work
3	Ice-Breaking Activities	19	City Life
4	Pronunciation Activities	20	Beliefs
5	Pronunciation Activities	21	The Future
6	Pronunciation Activities	22	Transportation
7	Pronunciation Activities	23	Vices
8	Vocabulary-Building Activities	24	Marriage
9	Vocabulary-Building Activities	25	Animals
10	Usage Activities	26	Computers
11	Usage Activities	27	The Generation Gap
12	Friends	28	Travel
13	Free Time	29	Textbook Review
14	The Past	30	Final Test Preparation
15	Mid-term Test Preparation	31	Final Test
16	Mid-term Test		

【履修上の注意事項】

Class is conducted in English.

【評価方法】

75%: In-class performance, attitude and improvement
 15%: Mid-term test
 15%: Mid-term test

【テキスト】

Communication Strategies 1 by David Paul (Cengage Learning)

【参考文献】

Oral Communication II

担当教員 東恩納 ミシェル

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

The primary focus of this course is for students to increase their ability to converse and communicate in English. Listening, speaking, pronunciation and vocabulary acquisition will be addressed.

【授業の展開計画】

Please note: As this is an oral ENGLISH class your instructor will speak only English during the class period. Please use English as much as possible in class. Please do not chat with your conversation partners in Japanese during the class period. Expect to spend several hours OUTSIDE of class time preparing for your midterm and final exams, and doing listening work.

週	授 業 の 内 容
1	Useful English and Introductions
2	Occupations
3	Social Greetings, Schedule, Telling Time, Daily Routines
4	Prepositions of location and Directions
5	Talking About Families
6	Discussing Interests and Leisure Activities
7	Talking About the Past and Sports
8	Midterm Test Review and Exam
9	Describing People
10	Feelings and Emotions
11	Shopping, Containers and Food
12	Talking About Experiences
13	Entertainment, Free Time and Music
14	Medical Terms, Accidents, and Warnings
15	Personal Goals and Dreams
16	Final Test Review and Exam

【履修上の注意事項】

【評価方法】

1. Six brief dialog or other oral presentations 30%
2. Midterm test 30%
3. Final test 30%
4. 10 hours listening 10%

If you are absent 10 times you cannot pass this course and will have to repeat it.

【テキスト】

Natural Speaking by Paul Thompson & Christopher Chase. Intercom Press

【参考文献】

Oral Communication II

担当教員 グレイ クエン ヒデオ

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

Our goal will be to become better, more confident english speakers.

【授業の展開計画】

we will follow the course of the Natural Speaking textbook.

週	授 業 の 内 容
1	Intoduction: Nuts and Bolts
2	Unit 1
3	Unit 2
4	Unit 3
5	Unit 4
6	Unit 5
7	Unit 6
8	Unit 7
9	Unit 8
10	Unit 9
11	Unit 10
12	Unit 11
13	Unit 12
14	Unit 13
15	Unit 14
16	Hugs and Kisses

【履修上の注意事項】

Please come to class prepared, ready to engage and deplete of inhibition

【評価方法】

Regular class attendance and ACTIVE participation will constitute to the majority of your grade. Additionally, your performance on bi-weekly quizzes and in-class presentations shall play a role.

【テキスト】

Natural Speaking

【参考文献】

N/A

Oral Communication II

担当教員 ビーター シンプソン

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

This course is designed to improve students' speaking and listening skills as well as their overall ability to communicate effectively in English in real-life situations.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Course Registration and Introduction
2	Useful English
3	Self-Introductions
4	What Do You Do?
5	Day to Day
6	Where Are We?
7	Talking about Families
8	What Are You Interested In?
9	Talking about the Past
10	Looking at People
11	This One? That One?
12	I' ve Got a Feeling
13	Let' s Go Shopping
14	That' s Entertainment
15	Dreams and Fantasies
16	Interview Tests

【履修上の注意事項】

The class will be conducted primarily in English. Students should come to class with their textbooks and be prepared to interact with the teacher and other students using English.

【評価方法】

Regular attendance and punctuality is extremely important in this class. Students will be evaluated on their attendance, class participation and a variety of listening and speaking exams. Students should note that there are no makeup examinations for listening or speaking exams. Missing one listening and one speaking exam will not have any impact on one' s final grade.

【テキスト】

Thompson, P. & Chase, C. Natural Speaking, Intercom Press (Available at Asano Bookstore)

【参考文献】

An English-Japanese/Japanese- English dictionary (printed or electronic) is recommended. Teacher will provide further reference materials as needed.

Oral Communication III

担当教員 一橋大学 英語学専攻 教授 藤田 隆

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Week 1: 7 April. Introductions, Textbook Unit 0.
2	Week 2: 11 & 14 April, Unit 1 'Have you two met?'
3	Week 3: 18 & 21 April, Unit 2 'You must be excited'
4	Week 4: 9 & 12 May, Unit 3 'Going Places'
5	Week 5: 16 & 19 May, Unit 4 'I love that!'
6	Week 6: 23 & 26 May, Unit 5 'Why?'
7	Week 7: 30 May & 2 June, Unit 6 'What's it like there?'
8	Week 8: 6 & 9 June, Review Unit 1
9	Week 9: 13 & 16 June, Unit 7 'Do you remember when...?'
10	Week 10: 20 & 23 June, Unit 8 'Making Plans'
11	Week 11: 27 & 30 June, Unit 9 'What should I do?'
12	Week 12: 4 & 7 July, Unit 10 'Tell me a story'
13	Week 13: 11 & 14 July, Unit 11 'In my opinion'
14	Week 14: 18 & 21 July, Unit 12 'Looking Ahead'
15	Exam Week 25-29 July.
16	Make Up Classes in August.

【履修上の注意事項】

【評価方法】

A Mid Term test (Oral and written)
 A Final Test (Oral and written)
 Participation in Class

【テキスト】

Marc Helgesen, Steven Brown & Thomas Mandeville English Firsthand 2 New Gold Edition. Pearson Longman 2008

【参考文献】

Oral Communication III

担当教員 -東恩納 ミシェル

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

The course aims to empower students to engage in basic conversations, correctly use in context the basic tense system, modal verbs, and basic speech acts, ask and answer questions on conversational topics, speak continuously in a short monologue on personal and everyday topics, be able to give their opinions, become aware of the effect of phonological features, improve their pronunciation, intonation, and rhythm and perceive, comprehend and respond where appropriate to basic spoken English.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Getting Started Personal Information
2	Asking for Information
3	Describing Things
4	Making Requests
5	Giving Instructions
6	Asking For Permission
7	Making Excuses and Giving Reasons
8	Midterm Test Review and Exam
9	Giving Opinions
10	Comparing Things
11	Giving Advice and Making Suggestions
12	Talking About Experiences
13	Inviting
14	Making Predictions
15	Personal Goals and Dreams
16	Final Test Review and Exam

【履修上の注意事項】

All notes for class will be taken by students provided orally by instructor.

【評価方法】

1. Six brief dialog or other oral presentations 30%
2. Attendance & participation 30%
3. Final test 30%
4. 10 hours listening 10%

If you are absent 10 times you cannot pass this course and will have to repeat it.

【テキスト】

Fifty-Fifty Book Two Third Edition

【参考文献】

1. Randall's Cyber Listening Lab <http://www.esl-lab.com/>
2. ELLLO <http://www.ello.org/english/home.htm>
3. VOA <http://www.voanews.com/english/news/>
4. National Geographic <http://www.nationalgeographic.com/>

Oral Communication III

担当教員 ーライト ヒレル アラン

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

The aim of this course will be for students to improve their ability to communicate in English. In order to maximize speaking time, students will do some of their work in pairs or small groups. I expect students to refrain from speaking in Japanese and to speak English as often as possible.

【授業の展開計画】

Classes will consist of textbook exercises and so-called "language gap" activities, which will take place in pairs or small groups. The group activities depend on active student participation, so I expect students to be enthusiastic about speaking English.

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to class and methods, self-introductions
2	Extemporaneous speeches (for evaluation purposes)
3	Traffic & the environment in Okinawa
4	Language & Travel
5	Education & Family
6	Marriage & Career (staying single)
7	Prepared speeches & Classroom Q & A
8	Friendship & Finances
9	Food & Health
10	Cyber bullying & extemporaneous speeches
11	Aging & personal responsibility
12	Higher education & classroom Q & A
13	International relationships & Prepared speeches
14	Social networks & film ("The Social Network")
15	Graded conversations (pairs or small groups)
16	Final Exam (Listening comprehension)

【履修上の注意事項】

I believe in creating a relaxed atmosphere in the classroom. Unnecessary tension inhibits conversation and participation. Don't be shy. Don't be afraid to ask questions or make mistakes. Don't be afraid to have an opinion different from the teacher's.

【評価方法】

Students will be evaluated based on attendance, class participation, homework, in-class speeches, graded conversation and listening comprehension test.

【テキスト】

Impact Issues (New Edition) by R.R. Day, J. Shaules & J Yamanaka, Pearson/Longman, ISBN 978-962-01-9931-8. In addition, students should bring a B5 notebook and an electronic dictionary to every class.

【参考文献】

Oral Communication III

担当教員 ケイ クエン ヒデオ

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

to improve students english speaking and listing skills

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1. Intro: Nuts and Bolts
2	2. Intro: Meet and Greet
3	Unit 1
4	Unit 1
5	Unit 1
6	Unit 2
7	Unit 2
8	Unit 2
9	Unit 2
10	Unit 2
11	Unit 3
12	Unit 3
13	Unit 3
14	Unit 3
15	Unit 3
16	Unit 3

【履修上の注意事項】

students will be expected to complete all homework assignments prior to the start of class on the day that they are due. This will prove to be exceedingly important as much of our in-class time will be dedicated to group work and discussion

【評価方法】

Class attendance and ACTIVE participation in small group discussions will constitute 50-60% of students' final grade. Weekly preparation will add 10-15%.

Final exam/presentation will account for 15-25%, with the balance being construed of weekly in-class presentations. Percentages will fall to the benefit of the student. (i.e. I will focus on your strong suits, to a limited degree).

【テキスト】

Widets

【参考文献】

N/A

Oral Communication III

担当教員 ジョウン ターバート

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

The class will include a variety of pair / group / class activities to develop communication skills. Topics will include: giving presentations, pair and group discussions and studying key phrases that are used in daily conversation.

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

The final grade will be based on quizzes, attendance, participation, pair / group work, presentations and homework assignments related to class activities. Students will be expected to use English as much as possible in class.

【テキスト】

There is no assigned textbook for this class. The instructor will provide materials to be used in class.

【参考文献】

観光英語

担当教員 東 菜美

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

英語の一般的能力だけでなく、観光業界の専門用語や独特の言い回しを学び、海外旅行や観光事業に従事する上で役に立つ英語の能力を身に付ける。

【授業の展開計画】

毎回、観光の場面やテーマを設定し、観光産業の基本的な知識を学習する。観光に関する用語や表現の習得、その他、多文化や国際的なマナー等を学びながら実務レベルの英語運用能力を高める。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイドダンス、オリエンテーション	17	ショッピング 第5章「自由行動の案内1」
2	観光概論、観光基礎知識	18	通貨 第5章「自由行動の案内1」
3	沖縄の観光 序章「添乗英語の特徴」	19	乗り物 第6章「自由行動の案内2」
4	航空業界 第1章「機内で」	20	乗り物 第6章「自由行動の案内2」
5	日本の航空会社 第1章「機内で」	21	レストラン 第7章「レストランで」
6	機内サービス 第1章「機内で」	22	メニュー 第7章「レストランで」
7	機内サービス 第1章「機内で」	23	世界の料理 第7章「レストランで」
8	空港業務 第1章「機内で」	24	世界の料理 第7章「レストランで」
9	空港業務 第2章「空港到着」	25	観光地 第8章「観光・視察」
10	出入国審査 第2章「空港到着」	26	世界遺産 第8章「観光・視察」
11	検疫・税関検査 第2章「空港到着」	27	トラブル対応 第9章「事故処理」
12	ホテル 第3章「ホテル1」	28	トラブル対応 第9章「事故処理」
13	ホテル 第3章「ホテル1」	29	日本の観光 第10章「現地での移動と帰国」
14	中間試験、観光英検過去問題・模擬問題	30	日本の観光 第10章「現地での移動と帰国」
15	ホテル 第4章「ホテル2」	31	期末試験
16	ホテル 第4章「ホテル2」		

【履修上の注意事項】

積極的に参加し取り組むこと。

【評価方法】

講義における参加、貢献度と中間試験、学期末試験の結果を総合的に評価する。

【テキスト】

「ツアーコンダクターの英語 English for Tour Leaders Overseas」 ジェイティービー能力開発

【参考文献】

沖縄県観光学習教材ワークブック 沖縄県観光商工部観光振興課

基礎演習 I

担当教員 漆谷 克秀

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「読む」「話す」「調べる」「書く」の基礎能力を培う。プリントを用いて生きた文章のポイントを口述し、原稿用紙(400字)による実作練習を繰り返す。思ったようには書けないのが当たり前で、「書く」事には技術が必要です。誤字のない、理解しやすい簡潔な表現を目指します。夏休みに、ゲーテの『ファウスト』を読み、レポートを作成する。

【授業の展開計画】

- 1週： 講師と受講生の自己紹介、授業のガイダンス
- 2週： 原稿用紙の使い方、
- 3週： 表現空間－接続詞、文の長さ－「が」
- 4週： 文末表現、全称的判断
- 5週： 比喻、呼応
- 6週： 語句の係り受け、
- 7週： 用語と語感、
- 8週： 同語の反復、
- 9週： 句読点
- 10週： 紛らわしい語－自動詞・他動詞
- 11週： 漢字とかな
- 12週： 簡潔な表現
- 13週： 翻訳調
- 14週： 助詞
- 15週： 前期のまとめ

【履修上の注意事項】

原稿用紙(400字)を用意してください。鉛筆書きで、Bか2Bを使ってください。10回ほどの実作練習がありますが、提出期限を守ること。

【評価方法】

出席を確認します。10回前後の原稿提出があります。出席と仕事の量で評価します。

【テキスト】

プリントを配布します。
ゲーテ『ファウスト』第一部、第二部、池内紀訳 (集英社文庫)

【参考文献】

本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫)

基礎演習 I

担当教員 新垣 實

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アカデミックレポートの書き方を中心に学習しながら、レポート作成に必要な文章力の向上を目指します。

【授業の展開計画】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 キャリアガイダンス
- 第3週 図書館オリエンテーション
- 第4週 文章トレーニング (1) ことばとは・文章とは・アカデミックレポートとは
- 第5週 文章トレーニング (2) アカデミックレポートの形式 1
- 第6週 文章トレーニング (3) アカデミックレポートの文章 2
- 第7週 文章トレーニング (4) アカデミックレポートの文章 1
- 第8週 文章トレーニング (5) アカデミックレポートの文章 2
- 第9週 文章トレーニング (6) アカデミックレポートの文章 3
- 第10週 課題発表 1
- 第11週 文章トレーニング (7) アカデミックレポートの文章 4
- 第12週 文章トレーニング (8) アカデミックレポートの文章 5
- 第13週 文章トレーニング (9) アカデミックレポートの文章 6
- 第14週 文章トレーニング (10) アカデミックレポートの文章 7
- 第15週 課題発表 2
- 第16週 まとめ

【履修上の注意事項】

- 1) 遅刻・無断欠席をしないこと
- 2) 積極的に授業に参加すること
- 3) 授業中に私語・居眠りをしないこと
- 4) 教室では携帯電話の電源を切ること
- 5) 宿題の提出期限を厳守すること

【評価方法】

出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来

【テキスト】

プリンと教材を準備する

【参考文献】

講義の中でそのつど紹介する。

基礎演習 I

担当教員 津波 聡

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

レポートの作成・発表、スピーチ、ディベート等の活動を通して日本語による文章力、発表力の向上を目指します。

【授業の展開計画】

コース前半は日本語によるグループ発表、個人スピーチ、後半は英語の個人スピーチ、ワークショップを行います。

【履修上の注意事項】

無断欠席・遅刻をしない（遅刻2回で欠席1回とみなします、1/3以上欠席の場合単位は認められません）

【評価方法】

授業態度（出席状況、発言）、ブックリポート、グループレポート、グループ発表、個人発表を総合的に評価します。

【テキスト】

講義の中で適宜配布します。

【参考文献】

授業の中で紹介します。

基礎演習 I

担当教員 尚 真貴子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「読む」「書く」「話す」「聞く」の四技能の実践的な練習を通じて、大学で学ぶための必要な「日本語力」の育成を目標とする。個人発表、グループ発表の際には、レジюмеを準備し内容を簡潔に明瞭にまとめ、分かりやすく話す。また、指定されたテキストを読み、それぞれのグループで大意とテーマをまとめ、発表し、それをもとに、全員でディスカッションを行う。

【授業の展開計画】

実際の授業の進め方（授業の展開計画）に関しては、別に詳しいシラバスを作成し最初の授業で配布する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

総合的に評価するが、特に平常点を重視する。依って出席率、提出物、担当課題の口頭発表、授業への参加状況などが重視される。

【テキスト】

配布資料と参考文献を中心に講義を行う。

【参考文献】

参考図書リストをクラスで配布する。

基礎演習 I

担当教員 迫立 祐嗣

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「読む」、「話す」、「聞く」、「書く」の四技能の実践的な訓練を通して、大学における学習方法の基礎力を培い、同時に、論理的な思考に根ざした日本語の運用能力を向上させることを目標とする。

【授業の展開計画】

前半は、カードの使い方、論の組み立て方などを、ディスカッションや作文を通して練習する。後半は、各回ごとに指定された日本語のテキストについて、指名されたグループがその大意とテーマを発表し、これを土台にして全員が問題点を議論する。発表するグループは、大意、テーマ、議論すべき問題点などをまとめた「発表報告書」を事前に作成し、発表の際に全員に配布する。また、授業の後に、そのテーマに関するレポートを書き、提出すること。（レポートの提出については、前期前半も同じ。）授業で指定されたテキストは、全員必ず読んでくること。

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

レポート：60%、発表・発言：40%

【テキスト】

プリント教材を用いる。

【参考文献】

『知的生産の技術』梅棹忠夫、岩波新書

『日本語の作文技術』本多勝一、朝日文庫

その他、適宜紹介する。

基礎演習 I

担当教員 松田 節子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この演習と後期の基礎演習Ⅱを通して大学での学業に必要な読解能力と表現能力を培う。前期の演習Ⅰでは、新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んでその内容について全員でディスカッションする。ディスカッションを通して、論点の捕らえ方、要点の纏め方、論理的な意見の述べ方などを練習する。続いて、各自興味のあるテーマを選んで調べ、その内容を口頭で発表する。発表した内容はレポートにまとめ、後日提出する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1回 オリエンテーション
2	2回 テキストの読み合わせと自己紹介の仕方
3	3回 テキストの読み合わせと文章の読み方
4	4回 新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んでのディスカッションー1
5	5回 新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んでのディスカッションー2
6	6回 新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んでのディスカッションー3
7	7回 個人発表の準儀（レジユメの書き方、発表の仕方、レポートのまとめ方など）
8	8回 個人発表ー1
9	9回 個人発表ー2
10	10回 個人発表ー3
11	11回 個人発表ー4
12	12回 個人発表ー5
13	13回 個人発表ー6
14	14回 個人発表ー7
15	まとめ（授業評価を含む）
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、欠席をしないこと
- (2) テキスト、ノート、筆記用具、電子辞書を持ってくること
- (3) 指定された課題を必ず読み、質問あるいは意見をもって授業に臨むこと
- (4) 授業中に私語、居眠りをしないこと
- (5) 教室では携帯電話の電源を切ること

【評価方法】

出席率、課題、発表、レポート、およびクラス・ディスカッションへの貢献度を見て総合的に評価する。

【テキスト】

選定中

【参考文献】

個人の発表テーマに応じて適宜紹介する。

基礎演習Ⅱ

担当教員 漆谷 克秀

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

夏休みのレポートを基に口頭発表を行う。最初に発表予定を決める。発表者はレジュメを用意して、予定に従って口頭発表をする。『ファウスト』に含まれるヨーロッパのモチーフやテーマ、ゲーテやその時代の文化、芸術などを発表をとして触れる。またそれが、現代を生きる私たちの問題として認識できることを願う。

【授業の展開計画】

- 1週： 授業のガイダンス、発表予定の作成、
- 2週： レジュメの作り方
- 3週： 口頭発表(2名)
- 4週： 同上
- 5週： 同上
- 6週： 同上
- 7週： 同上
- 8週： 同上
- 9週： 同上
- 10週： 同上
- 11週： 同上
- 12週： 同上
- 13週： 同上
- 14週： 同上
- 15週： 同上、最終レポートの提出

【履修上の注意事項】

『ファウスト』が難解であることは周知の事実です。難解であればこそ、そのなかでいろいろと考え、考えたことを積極的に発言して、授業に参加してください。
最終レポートは、1月中に提出してください。

【評価方法】

出席を確認します。提出されたレポートと授業への参加量で判断します。

【テキスト】

ゲーテ『ファウスト』、第一部、第二部、池内紀訳、(集英社文庫)

【参考文献】

レポート作成の際に必要な文献は、個々のテーマに即した文献を、図書館などで調べてください。

基礎演習Ⅱ

担当教員 津波 聡

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

和文の学術論文を読み、内容を要約し、発表する活動を通して、日本語の「読む」「書く」「話す」技能の更なる向上を図ります。また、英語による授業に対応できるよう英語によるコミュニケーション活動も取り入れます。

【授業の展開計画】

前半は、日本語によるスピーチ、グループレポート作成及び発表、後半はパワーポイントを使用した英語スピーチを練習します。

【履修上の注意事項】

- (1) 無断欠席・遅刻をしない（遅刻2回で欠席1回とみなします、1/3以上欠席の場合単位は認められません）
- (2) 課題は期限内に提出すること

【評価方法】

授業態度（出席状況、発言）、スピーチ、グループレポート、ブックリポートを総合的に評価します

【テキスト】

講義中に適宜配布します

【参考文献】

講義中に連絡します

基礎演習Ⅱ

担当教員 尚 真貴子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期の「基礎演習Ⅰ」に引き続き、大学の授業や研究発表の場で必要な読解能力、文章表現能力、口頭発表能力を培う。指定されたテキストを読み、グループで分担し内容を要約、レジュメを作成して発表する。また、個人で興味あるテーマを選んで調べ、比較的長いレポートを仕上げることを目指し提出する。

【授業の展開計画】

実際の授業の進め方（授業の展開計画）については、別に詳しいシラバスを作成し最初の授業で配布する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

総合的に評価するが、特に平常点を重視する。依って出席率、提出物、担当課題の口頭発表、授業への参加状況などが重視される。

【テキスト】

配布資料と参考文献を中心に講義を行う。

【参考文献】

参考図書リストをクラスで配布する。

基礎演習Ⅱ

担当教員 新垣 實

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習Ⅰで学習したことを前提に、さらにアカデミックレポートの書き方を中心に学習しながら、レポート作成に必要な文章力の向上を目指すとともに、各自レポート作成を行う。

【授業の展開計画】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 キャリアガイダンス
- 第3週 図書館オリエンテーション
- 第4週 文章トレーニング (1)
- 第5週 文章トレーニング (2)
- 第6週 文章トレーニング (3)
- 第7週 文章とトレーニング (4)
- 第8週 文章トレーニング (5)
- 第9週 文章トレーニング (6)
- 第10週 課題発表1
- 第11週 文章トレーニング (7)
- 第12週 文章とトレーニング (8)
- 第13週 文章トレーニング (9)
- 第14週 文章トレーニング (10)
- 第15週 課題発表2
- 第16週 まとめ

【履修上の注意事項】

- 1) 遅刻・無断欠席をしないこと
- 2) 積極的に授業に参加すること
- 3) 授業中に私語・居眠りをしないこと
- 4) 教室では携帯電話の電源を切ること
- 5) 宿題の提出期限を厳守すること

【評価方法】

出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来

【テキスト】

プリント教材を準備します。

【参考文献】

授業の中でそのつど紹介します。

基礎演習Ⅱ

担当教員 松田 節子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期の基礎演習Ⅰに続き、大学での学業に必要な読解能力と表現能力を培う。後期はグループ発表形式を取り、特定のテーマ（例：早期英語教育、バイリンガル教育）について賛否の立場から意見を述べる練習をする。テーマはグループごとに定めることとし、発表するグループはそれぞれの論点を1000字程度にまとめたレジюмеと参考文献リスト・資料をゼミのメンバー全員分準備し、配布する。発表後は各自調べた内容をレポートに纏め、提出する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1回 夏休みについての報告
2	2回 テキストの読み合わせ
3	3回 テキストの読み合わせ
4	4回 テキストの読み合わせ
5	5回 意見の述べ方ー1（レジюмеおよびレポートの書き方）
6	6回 意見の述べ方ー2（論点を押さえた意見の述べ方）
7	7回 グループ発表ー1
8	8回 グループ発表ー2
9	9回 グループ発表ー3
10	10回 グループ発表ー4
11	11回 グループ発表ー5
12	12回 グループ発表ー6
13	13回 グループ発表ー7
14	14回 グループ発表ー8
15	まとめ（授業評価を含む）
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、無断欠席をしないこと
- (2) テキスト、ノート、筆記用具、電子辞書を持ってくること
- (3) グループ発表のテーマについては、発表者以外も必ず調べ、意見をもって授業に臨むこと
- (4) 授業中に私語、居眠りをしないこと
- (5) 教室では携帯電話の電源を切ること

【評価方法】

出席率、課題、発表、レポート、および討論への貢献度などを見て総合的に評価する。

【テキスト】

選定中

【参考文献】

各グループの発表テーマに応じて適宜紹介する。

基礎演習Ⅱ

担当教員 追立 祐嗣

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「読む」、「話す」、「聞く」、「書く」の四技能の実践的な訓練を通して、大学における学習方法の基礎力を培い、同時に、論理的な思考に根ざした日本語の運用能力を向上させることを目標とする。

【授業の展開計画】

前半は、各回ごとに指定された日本語のテキストについて、指名されたグループがその大意とテーマを発表し、これを土台にして全員が問題点を議論する。発表するグループは、大意、テーマ、議論すべき問題点などをまとめた「発表報告書」を事前に作成し、発表の際に全員に配布する。また、授業の後に、そのテーマに関するレポートを書き、提出すること。授業で指定されたテキストは、全員必ず読んでくること。

後半は、全員がそれぞれのテーマで比較的長いレポート（論文形式）を仕上げることを目指し、アウトラインのたて方、資料の収集、個人発表などを中心として授業を進めていく予定。

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

前半の作文：30%、発表・発言：20%、個人発表10%、自由レポート：40%

【テキスト】

プリント教材を用いる。

ただし、前半は、テキストを使用する予定。

【参考文献】

『知の技法』小林康雄・船曳建夫編、東京大学出版会
その他、適宜紹介する。

基礎演習Ⅲ

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

This course is designed to assist students in improving their ability to choose a research topic, gather information from libraries, the Internet and other sources, analyze that information, present it in a written English report and then make an oral presentation based on that report. This first half of the course will give more attention to developing English research and writing skills.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Registration and Course Introduction
2	Student Self Introductions
3	Introduction to research methods
4	Introduction to Rashamon and In a Grove
5	Kurosawa's Rashamon
6	Group discussions of Rashamon
7	Submission of Rashamon Research Paper first draft
8	Return of Rashamon Research Paper first draft
9	Submission of Rashamon Research Paper final draft
10	Selection of Paper Topics
11	Library Search Exercise
12	Library Search Check
13	Submission of Research Plan
14	Individual Consultations
15	Submission of Introduction
16	Return of Introduction

【履修上の注意事項】

Registration for this course is based on assignment by student number.

【評価方法】

Students will be evaluated based on their written reports, oral presentations, homework, and class participation. Students will also be evaluated on their attendance and their ability to meet deadlines.

【テキスト】

There is no text for this class.

【参考文献】

基礎演習Ⅲ

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

高学歴ワーキングプアが叫ばれ始めた頃から、上の世代が作り上げたレールに乗るだけで満足してはいけない時代に突入した。つまり、「正解」や「答え」の無い時代に我々は生きている。本講義では、文章作成の基礎を確認するとともに、「発想力」「分析力」「要約力」等のトレーニングをする。発表と質疑応答を通して、参加者にとっての「最善解」を導き出すことを狙いとする。日々の学習を俯瞰し、横断的に知識の貸し借りができるようになれば、変化の激しい現代を生き抜けるでしょう。

【授業の展開計画】

テキストの分担発表と並行して、例えば以下のようなトレーニングも行う。

- ・即席スピーチ → 即断力
- ・書評の練習 → 要約力
- ・無声映画の文章化 → 発想力
- ・絵の描写 → 説明力

*** 選定するテキストにより、内容が多少変更する場合もある ***

上掲トレーニングは近い将来の就職活動とも関わりが深い。そこで、「企業分析とプレゼンテーション」をグループ毎にしてもらい、質疑応答などを通じた実践練習も考えている。

【履修上の注意事項】

何度か課題があります。

【評価方法】

①出席率 ②クラスでの作業 ③質疑応答など授業への貢献度 ④課題、等

【テキスト】

選定中につきTBA。

【参考文献】

小笠原信之 2011『伝わる!文章力が身につく本—できる人は文章も上手い!』高橋書店. ¥1,200 (税別).
近藤勝重 2011『書くことが思いつかない人のための文章教室』幻冬舎新書. ¥780 (税別).
瀧本哲史 2011『武器としての決断思考』星海社 ¥820 (税別).

基礎演習Ⅲ

担当教員 李 イニッド

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

The aim of this course is to provide guidelines, strategies and practice in writing term papers and summaries. Students will learn how to prepare for a term paper through a series of individual and group activities.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	Prewriting: Topics
3	Prewriting: Sources
4	Library workshop (1)
5	Prewriting: Taking notes
6	Library workshop (2)
7	Organizing your paper: Thesis statement
8	Organizing your paper: Outline
9	Writing the first draft: Title & style
10	INTRODUCTION
11	BODY (1)
12	BODY (2)
13	CONCLUSION
14	Avoiding plagiarism
15	Evaluating and rewriting
16	Final draft

【履修上の注意事項】

No particular requirements.

【評価方法】

Attendance & Class Participation (40%). Homework (20%). Term Paper (40%).

【テキスト】

To be announced in class.

【参考文献】

基礎演習Ⅲ

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

The seminar will be conducted as a workshop: students will be provided a large selection of reading materials from which to choose, be given ample time to read during class, and be asked to share their reactions to various books. Through extensive reading, students should develop greater independence and more confidence in their English reading abilities.

【授業の展開計画】

As explained above, the seminar will be conducted in a workshop format. This means there will be few if any formal lectures. Instead, we will have reading time, small group activities, and occasional large group discussions. In addition, students will be asked to present a book to the class and make a poster in a group.

週	授 業 の 内 容
1	Introduction, using the extensive reading library
2	Discussion about reading, writing a good essay
3	DUE: "Reading and You" handout / Discussion about reading
4	DUE: Read 「多読 (Extensive Reading) について」 Short test and discussion
5	Presentations: Introduce a book DUE: Reading Notebooks (3 weeks)
6	Presentations: Introduce a book
7	Library guidance
8	DUE: Reading Notebooks (3 weeks) Discussion: Talking about literature
9	Test on assigned book. Discussion: Talking about literature
10	Movie (in English with English captions)
11	Discussion of movie and book DUE: Reading Notebooks (3 weeks)
12	Groups for poster projects
13	Working on posters
14	Poster presentations
15	DUE: Reading Notebooks (Okinawa literature, short stories)
16	Final exam and evaluations Early August: Seminar House

【履修上の注意事項】

Students should be prepared to do an extensive amount of reading, especially in English. Since the focus is on extensive reading, students are strongly encouraged to choose books and materials that they can easily comprehend. Books that seem too easy are far preferable to books that seem too difficult.

【評価方法】

Students will be evaluated based on class performance, journals, and how much reading they do. In general, students must read more than 35 pages / week to receive a passing grade (可); more than 45 pages / week to receive a 良; and more than 55 pages / week to receive a 優. Three latenesses will count as one absence. Students should read 15 extra pages for each absence.

【テキスト】

Students will not be required to buy any textbooks but will be allowed to borrow graded readers and other books from the instructor.

【参考文献】

Students should bring a B5 notebook and an electronic dictionary to every class.

基礎演習Ⅲ

担当教員 ヒーター シンプソン

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

The aim of this course is to build on students' English study skills so as to conduct academic discussions, and produce academic texts and presentations in English.

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

For practical reasons classes will be conducted predominantly in English, though I do not intend to impose an "English only" policy.

【評価方法】

Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance, and self-evaluation

【テキスト】

No textbook is required for this class.

【参考文献】

基礎演習Ⅳ

担当教員 ヒーター シンプソン

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

The aim of this course is to build on students' English study skills so as to conduct academic discussions, and produce academic texts and presentations in English.

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

For practical reasons classes will be conducted predominantly in English, though I do not intend to impose an “English only” policy.

【評価方法】

Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance, and self-evaluation.

【テキスト】

No textbook is required for this class.

【参考文献】

基礎演習Ⅳ

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

This course is designed to assist students in improving their ability to choose a research topic, gather information from libraries, the Internet and other sources, analyze that information, present it in a written English report and then make an oral presentation based on that report. This second half of the course will give more attention to developing oral English presentation skills.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Course Introduction and Registration
2	Individual Consultations
3	Submission of Introduction and Body
4	Return of Draft
5	Individual Consultations
6	Submission of First Full Draft
7	Return of Draft
8	Submission of Second Draft
9	Return of Draft
10	Individual Consultations
11	Submission of Final Draft
12	Oral Presentations Preparation Day
13	Oral Presentations
14	Oral Presentations
15	Oral Presentations
16	Oral Presentations

【履修上の注意事項】

Registration for this course is based on assignment by student number.

【評価方法】

Students will be evaluated based on their written reports, oral presentations, homework and class participation. Students will also be evaluated based on their attendance and their ability to meet deadlines

【テキスト】

There is no text for this class.

【参考文献】

Students should follow the standards of the APA Publication Manual.

基礎演習Ⅳ

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

英文文章構成の理解を目的とする。最低限の英語能力の体得は本学科の学生には必須と判断するからである。世間を見渡せば、「企業内英語公用語化」「TOEIC高得点者には好待遇」等々、英語力向上を願う風潮が見てとれる。「日本人の9割に英語は知らない」との意見もあるが、本学科の学生は残りの1割であろう。しかし、押し寄せる国際化の波は、恐らく、日本国外の方が高いのかもしれない。理由は、フィリピン、インド、シンガポールなどを見れば一目瞭然だ。英語ができなければ社会的・経済的に不利なことが沢山あるからだ。参加者には、英米言語文化学科に進学した「動機」をもう一度思い出してもらい、少しでも学習意欲を高めてほしい。

【授業の展開計画】

詳細はTBA。グループ発表と質疑応答が中心となります。英文テキストを用いるため、練習問題を解くなど予習には十分な時間を割いてもらい、内容を理解した上で授業に参加してほしい。

【履修上の注意事項】

なし。尚、受講生の興味関心を尊重し、授業の展開計画を柔軟に変更する場合もある。この点は基礎演習Ⅲも同様である。

【評価方法】

①出席率 ②クラスでの作業 ③質疑応答など授業への貢献度 ④課題、等

【テキスト】

現在選定中。TBA.

【参考文献】

黒木登志夫 2011『知的文章とプレゼンテーションー日本語の場合、英語の場合』中公新書。 ¥800 (税別)
倉島保美 2006『英語プレゼンテーションの技術』日本経済新聞社。 ¥2,200(税別)
ISSコンサルティング (編) 2011『外資系トップの英語力』ダイヤモンド社。 ¥1,500 (税別)

基礎演習Ⅳ

担当教員 李 イニッド

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

This course focuses on skills and practice in giving oral presentations. Students will acquire basic presentation skills through a variety of individual and group activities.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Review; abstract writing
2	Proofreading: self and peer editing
3	Mini presentations
4	The physical message (1)
5	" (2)
6	" (3)
7	The visual message (1)
8	" (2)
9	The story message (1)
10	" (2)
11	" (3)
12	" (4)
13	Final performance
14	Oral presentation (1)
15	" (2)
16	" (3)

【履修上の注意事項】

Students who enroll in this course must have taken 基礎演習Ⅲ from the same instructor.

【評価方法】

Attendance & Class Participation (40%). Homework (20%). Oral Presentation (40%).

【テキスト】

To be announced in class.

【参考文献】

基礎演習Ⅳ

担当教員 ヒーター シンプソン

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

自分で研究テーマを探し、文献を読んでテーマを様々な角度から考察した上で、自分の考えを文章にまとめるという主体的な学習が大学では求められる。この授業では、テーマの探し方、リサーチの仕方、アウトラインの作り方、論文の書き方の基礎を学び、実際に自分で小論文を書く練習をする。また、自分で選んだテーマについて各自が発表し、クラスで討論を行い、それぞれのテーマについてより深く考察できるようにする。

【授業の展開計画】

第1週～7週

下記の項目について学ぶ。

1. 調査の仕方・文献の探し方
2. 論文の書き方（論文の構成、引用や註について）
3. 研究テーマの設定
4. アウトラインの作成
5. 口頭発表の仕方

第8週～16週

各自が自分で選んだテーマについて口頭発表を行う。各発表の後に、質疑応答、討論の時間を設ける。自分の選んだテーマについて小論文を書き、学期末に提出する。

【履修上の注意事項】

1. 欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにすること。
2. 遅刻（早退）2回で欠席1回の扱いになる。
3. 提出課題の締め切りは厳守すること。

【評価方法】

小論文50%、提出課題20%、発表20%、出席・授業参加10%

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

基礎演習Ⅳ

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

During this semester, we will work together to create a web site that introduces Okinawan literature to English speakers. In groups of four or five, students will introduce one of four Okinawan authors (Oshiro Tatsuhiro, Matayoshi Eiki, Sakiyama Tami, or Medoruma Shun). Each student will then write a report that introduces the short story to which they have been assigned. Reports should discuss the following: plot, characters, point of view, setting, symbolism, style, and theme.

【授業の展開計画】

All students will be required to write a 6-page report on a short story to which they have been assigned. In class, we will spend a lot of time revising the reports and examining students' reports.

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to the course, deciding on groups and stories
2	Lecture: Writing an Academic Paper
3	Short test on books (in English), Group discussion
4	Lecture: Elements of Fiction (plot, character, point of view, theme, setting, etc.)
5	Group discussion of the stories
6	Group discussion of the stories
7	DUE: Plot summaries and character lists / Discussion of plot and characterization
8	DUE: Reports on setting, historical background, and point of view / Discussion
9	DUE: Reports on symbolism, writing style / Discussion
10	DUE: Reports on Theme / Discussion
11	COMPLETE PAPERS DUE (before the winter break) / Pair check and revision
12	General comments on student papers
13	Individual conferences, revision of papers
14	Individual conferences, revision of papers
15	Oral presentation of papers
16	FINAL REVISIONS DUE / evaluations / discussion of course

【履修上の注意事項】

Students should be prepared to do an extensive amount of reading in Japanese and a lot of writing in English. Since students will be writing in English about short stories and criticism that they have read in Japanese, they should have a good Japanese-English dictionary with them at all times.

【評価方法】

Students will be evaluated based on class performance, whether they meet deadlines, and their six-page academic report. Students must attend at least 70% of all classes to receive a passing grade (可); more than 80% to receive a 良; and more than 90% to receive a 優. Three latenesses will be counted as one absence; however, a lateness of more than twenty minutes will count as an absence.

【テキスト】

Students should purchase a copy of the short story to which they have been assigned.

【参考文献】

Students should bring an electronic dictionary and a B5 notebook to every class.

言語学概論 I

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

言語学の歴史は古い。古いということは様々な学派や理論があるということである。そこで言語学概論 I では、言語学を概観するアプローチを取り、ことばの学習上、より重要と思われるトピックを中心に講義を行う。学問的な重い響きを払拭するため、言語学というより「ことば学」として捉えたい。ことばを学習・習得できるのは人間だけであるという点で、「人間学」の基本と捉えても差し支えない。そして、ことばを知ることが、文学・教育・人類学などの他分野・日常生活に如何に直結しているかが伝われば、担当者として至福である。

【授業の展開計画】

開講時まで塾考するためTBA。
関連分野との学問的交流の意味で、数人のゲスト・スピーカーを予定している。

【履修上の注意事項】

特になし。遅刻厳禁。

【評価方法】

①出席 ②課題 ③テスト ④授業への貢献度、等

【テキスト】

現在選定中。開講時に指示する。

【参考文献】

大津由紀雄（編）2009『はじめて学ぶ言語学』京都：ミネルヴァ書房。 ¥2,800。
瀬田幸人・他（編）2010『入門 ことばの世界』東京：大修館書店。 ¥1,890。

言語学概論Ⅱ

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

言語学概論Ⅰでは言語学を概観することを狙いとした。そこで、言語学概論Ⅱでは一步踏み込んだアプローチを試みる。音韻論・形態論・統語論・意味論などの導入・説明・理解の後に、琉球沖縄という地理的特徴を活かした考察を試みたい。つまり、社会言語学・言語人類学・危機言語などという、隣り合わせの言語事情を考えてみたい。ことば学の視点から、琉球沖縄という地理的空間の魅力・意義・現状も確認してみたい。ただし、選定するテキストにより内容が多少変更する場合もある

【授業の展開計画】

開講時まで塾考するためTBA。
関連分野との学問的交流の意味で、数人のゲスト・スピーカーを予定している。

【履修上の注意事項】

特になし。遅刻厳禁。

【評価方法】

①出席 ②課題 ③テスト ④発表 ⑤授業への貢献度、等

【テキスト】

現在選定中。開講時に指示する。尚、図書館の「指定図書」も参考にして下さい。

【参考文献】

S・ロメイン 1997『社会の中の言語』東京:三省堂。¥2,800。
C・アジェージュ 2004『絶滅していく言語を救うために』東京:白水社 ¥7,140。

言語研究特論

担当教員 ダニエル ロング (世話役：尚 真貴子)

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

日常的なことばに関する様々なデータを通じて、社会の中の言語使用について勉強する。授業のねらいは5点にある。(1)日本語にある「変異」(バリエーション)を客観的に捉えること。(2)日本語の変化に関する調査結果を批判的に読み、変化の要因を抽出すること。(3)言語意識研究に用いられる様々な手法を学ぶこと。(4)外国人の話す間違った日本語(中間言語)の原因を探り、さらに母語話者の日本語との共通点・相違点を抽出すること。(5)方言を使った看板や広告(言語景観)を文化的観光資源として捉え、分析すること。

【授業の展開計画】

- 1回：社会言語学の歴史とその研究領域
- 2回：属性とことば
- 3回：場面によるコード切り替え
- 4回：敬語の運用
- 5回：言語行動
- 6回：ことばと文化
- 7回：多言語状況
- 8回：言語接触
- 9回：言語変化
- 10回：フォリナー・トーク
- 11回：言語意識
- 12回：母語の獲得
- 13回：第二言語の習得
- 14回：観光資源としての方言(言語景観)
- 15回：言語政策、旧植民地(サイパン、パラオ)の残存日本語にみられる沖縄の影響
- 16回：試験

【履修上の注意事項】

テキストとして以下の本を使う。集中講義という限られた時間なので、テキストを事前に入手して初日の一限目から使えるように持って来ること。『社会言語学図集 改訂版』真田信治、ダニエル・ロング、他(2010)秋山書店2100円 「言語景観」(町の中で見られる言語的興味深い看板)を撮影するためにデジカメ、またはカメラ機能付きの携帯電話があれば便利。ない人は最初の時間に担当教員に相談してください。なお、学期末試験は、授業時間数の4分の3以上出席した者につき行う。

【評価方法】

積極的な授業参加(「出席」ではなく、質問したり意見を言ったりするという「参加」) 40%
試験 60%

【テキスト】

『社会言語学図集 改訂版』真田信治、ダニエル・ロング、他(2010)秋山書店2100円

【参考文献】

『世界の言語景観 日本の言語景観』桂書房
『マリアナ諸島に残存する日本語—その中間言語的特徴—』明治書院

国際コミュニケーション論

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

コミュニケーションについての定義は多種多様である。しかし、「コミュニケーション能力」と「言語能力」はイコールではないとの指摘には留意すべきであろう。コミュニケーション能力の一部に、言語能力、異文化適応能力、あるいは教養力などが含まれるのであろう。本講義では国際ビジネスの視点からコミュニケーションの在り方を考察する。国際ビジネスにおける成功と失敗の要因として、異文化理解が話題になることが少なからずある。知識・経験が十分にある場合でも、それを上手く伝えられなければコミュニケーションは可能とならないからだ。本講義ではこうした問題点に触れつつ、国際社会の在り方をコミュニケーションの視点からも再考する。

【授業の展開計画】

開講時まで塾考するためTBA。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

①出席 ②課題 ③テスト、等

【テキスト】

現在選定中につきTBA。開講時に指示します。

【参考文献】

亀田尚己 2009『国際ビジネスコミュニケーション再考』東京：文真堂。¥3,150。
馬越恵美子・桑名 義晴・異文化経営学会 2010『異文化経営の世界—その理論と実践』白桃書房。¥3,460。
R. Scollon & S. W. Scollon. 2000. Intercultural Communication. Oxford: Blackwell.

コミュニケーション概論

担当教員 兼本 円

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

日常の様々な事象がコミュニケーションとどの様に関わっているかを最近のコミュニケーション学の成果を概観して把握する。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

テキストに記されている事柄を学ぶだけではなく、それを応用する姿勢が重要です。自問自答するのではなく、授業中に教師に質問して知識を確かなものにして下さい。

【評価方法】

毎回の授業の出席率、2回の試験の結果、クイズ（随時）、授業における積極性を総合して評価します。

【テキスト】

「コミュニケーション学—その展望と視点」

【参考文献】

授業で随時紹介する。

CALL教授法

担当教員 野口 正樹

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、英教法 I 及び英語教材研究では扱えない CALL 機器を活用した教授実践を行います。従って、英教法履修者は、“原則”履修することが望ましいです。先ず、CALL 教室の可能性を一斉授業の中で確認します。次に、教師卓の機器使用法を受講者一人ひとりに demo を通じて伝えます。最後に、受講生各自が教師となり、CALL 機器を使用した授業を行います。その際、CALL 教授にふさわしい教材作成が必要になります。もつとも、教材開発までは求めず、市販の教材を加工して教育機器の長所を導き出す工夫を目指します。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡ください。
- ③ 課題は、期限までに毎時完成させましょう。
- ④ 携帯電話は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② presentation
- ③ 個人・相互評価
- ④ 質疑応答
- ⑤ 課題
- ⑥ 受講姿勢
- ⑦ 教材作成
- ⑧ CALL 教授実践

【テキスト】

講義内で連絡します。

【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

時事英語

担当教員 ヒーター シブソン

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

This class will be designed and redesigned through a process of negotiation based on students priorities, unfolding events in Okinawa, Japan and the world, and previous media projects which I have been involved with in Okinawa. Possibilities are likely to include an examination of reports into the recent Tohoku catastrophe, and appropriate courses of action to take in response, how controversial events are reported in Okinawa, and a group reporting project.

【授業の展開計画】

Course structure will be organised after an initial needs assessment.

【履修上の注意事項】

While use of English may be encouraged in this class, this will only be within meaningful contexts. In other words, where Japanese explanation and discussion lead to greater understanding of issues involved, these will be most welcome.

【評価方法】

Evaluation will also be negotiated with the class, but is likely to include attendance, group work, and a final report.

【テキスト】

Students are not required to buy a textbook, but please read the newspapers and watch TV news!

【参考文献】

専門演習 I

担当教員 李 イニッド

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

This course aims to introduce students to the basic concepts of nonverbal communication, with an emphasis on the problems and opportunities of communication in a variety of intercultural contexts.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	Verbal vs. nonverbal communication
3	Body Movements & Gestures
4	Facial Expressions
5	Eye Behavior & Gaze
6	Paralanguage
7	Touching Behavior
8	Space & Distance
9	Time & Silence; Gender Differences
10	Clothing & Personal Artifacts
11	The Environment & Colors; Supervisor-Employee nonverbal relationships
12	Cross-cultural Differences; Teacher-Student nonverbal relationships
13	Other topics
14	Oral presentations (1)
15	Oral presentations (2)
16	Oral presentations (3)

【履修上の注意事項】

No particular requirements.

【評価方法】

Attendance & Class Participation (50%). Term Paper & Oral Presentation (50%).

【テキスト】

To be announced in class.

【参考文献】

To be announced in class.

専門演習 I

担当教員 野口 正樹

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

英語の『なぜ?』に答える形で講義を行います。“I'm loving it.”はなぜ進行形で表現出来るのか。“psychology”の“p”はなぜ発音されないのか。日本語では家畜名「豚」に「肉」を付けるだけで食肉の「豚肉」になるのに、英語では“pig”を“pork”と表現し、“pig meat”と普通なぜ表現しないのか。“look”は視線を向けて見るはずなのに、“He looks happy.”と「...のように見える」といった意味になるのは?なぜ、“He sees happy.”と言えないのか。これらの疑問を解明しながら、英語全般に関する知識を深めます。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡下さい。
- ③ 課題は毎時期限までに完成させます。
- ④ 携帯電話の電源は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② presentation
- ③ 疑問解明度
- ④ 質疑応答・全体討論
- ⑤ task 評点
- ⑥ 受講姿勢

【テキスト】

講義内で適宜配布します。

【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

専門演習 I

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「英語」に関する何気ない疑問を見過ごしていかないだろうか。本演習では、そうした疑問を再考しながら英語の現在や未来を読み解いていく。世界語としての英語、国際語としての英語、等の用語が飛び交う一方で、Singlish、Chinglish、Spanglish等々、各地で大量発生する英語の形態をあらわす「パングリッシュ」(Panglish)という語も生まれた。これはギリシア語のpan「すべて」とEnglishを結びつけた語である。米国バージニア州の西部では、現在進行形を she is at working などと(普通に!)言います。マレーシア英語では、「パーティに行く?」を Go to the party, can nor not? と表現します。生命体として、英語は生きているのです。

【授業の展開計画】

テキストを決めてグループ発表を毎回行います。ハンドアウト配付、質疑応答など、基礎的なことが要求されます。

【履修上の注意事項】

特になし。言語学の専門知識は無用であるため、どなたでも参加できます。むしろ、この授業を通して、ことばへの関心を深めてもらうことを狙いとします。

【評価方法】

①出席率 ②課題 ③発表 ④授業態度

【テキスト】

年度末まで熟考するため現時点で未定。

【参考文献】

河原俊昭・川畑松晴 2006『アジア・オセアニアの英語』めこん。¥2,500(税別)
ジェームズ・スタンロー 2010『和製英語と日本人—言語・文化接触のダイナミズム』新泉社。¥2,500(税別)
堀田隆一 2011『英語史で解きほぐす英語の誤解—納得して英語を学ぶために』中央大学出版部。¥880(税別)

専門演習 I

担当教員 津波 聡

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

映画の視聴、精聴、シャドーイング、スクリプトの音読、ディスカッション等を通してコミュニケーション能力の向上を図る。

【授業の展開計画】

各チャプターを字幕なしで理解できるように、チャプター内の語彙や重要表現の確認、精聴、音読等の活動をペア・グループの形態で行う。

【履修上の注意事項】

3分の1以上欠席の場合、単位は認められない（遅刻2回で欠席1回となる）。

【評価方法】

授業態度（出席状況、発言）、演習、提出物、クイズを総合的に評価する。

【テキスト】

授業の中で連絡する

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する

専門演習 I

担当教員 尚 真貴子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語学習者は目的や背景等も多様化しており、学習者のニーズに答えられる教員の養成が必要とされている。そこで第二言語としての日本語の習得研究と日本語教育について、色々なテーマを取り上げていく。さらに言葉としての日本語だけでなく、社会・心理的側面、言葉の扱い方、教え方及び日本語学習者にとって役立つ課題を捉えていく。

【授業の展開計画】

実際の授業の進め方（授業の展開計画）については、最初の授業の際に、詳しいシラバスを配布する予定である。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席率＋課題＋発表＋授業への貢献度

【テキスト】

テキストはプリント教材を準備する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 ヒーター シンプソン

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

The themes developed in this seminar will be negotiated with students, but will involve group presentations and written work based on my own interests and those of the students. These include, but are not limited to social, cultural, political and linguistic issues and all levels of society from the global to the local.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Course Registration and Introduction
2	Mapping the World Exercise
3	Research Topics, Resources and Methods
4	World Views (Small Group Meeting)
5	Fieldwork and Group Consultations
6	Global Systems and Organizations (NGOs etc.) (Group Research Plans)
7	The Environment
8	War and Peace, Economic Justice, Human Rights
9	Fieldwork and Group Consultations
10	Group Presentations (Group Papers due)
11	Group Presentations (Group Papers due)
12	Individual Topics Selection
13	Fieldwork and Individual Consultations
14	Submission of Research Plan including Bibliography for Individual Report
15	Fieldwork and Individual Consultations
16	Work in Progress Oral Presentations

【履修上の注意事項】

Students should be prepared to write and speak in English.

【評価方法】

Students will be evaluated based on attendance, group work, class participation and written assignments.

【テキスト】

No Text

【参考文献】

Students should be prepared to use the APA Publication Manual style sheet examples.

専門演習Ⅱ

担当教員 李 イニッド

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

This course is designed to help students develop an awareness of the contemporary research on gesture and acquire the basic skills in observing and gestures in interpersonal communication.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction/Review
2	Gesture Studies: Introduction; History; Analysis
3	Gesture Studies: Functions; Classification; Theories
4	Review of L2 Gesture Studies (1)
5	Review of L2 Gesture Studies (2)
6	Why do we gesture?
7	Research Methods (1): Data collection
8	Research Methods (2): Transcription & Analysis I
9	Research Methods (3): Transcription & Analysis II
10	Other related topics
11	Project (1)
12	Project (2)
13	Project (3)
14	Oral presentations (1)
15	Oral presentations (2)
16	Oral presentations (3)

【履修上の注意事項】

Students who enroll in this course must have taken 専門演習I from the same instructor.

【評価方法】

Attendance & Class Participation (50%). Term Projects & Oral Presentation (50%).

【テキスト】

To be announced in class.

【参考文献】

To be announced in class.

専門演習Ⅱ

担当教員 ヒーター シンプソン

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

This course is a continuation of Third Year Seminar I. Students will complete their research projects and make oral presentations based on those projects.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Course Registration and Introduction
2	Fieldwork and Individual Consultations
3	Submission of Introduction and Body
4	Return of Introduction and Body
5	Submission of Full First Drafts
6	Return of First Drafts
7	Fieldwork and Individual Consultations
8	Submission of Second Drafts
9	Return of Drafts
10	Individual Consultations
11	Deadline for Final Drafts
12	Preparations for Oral Presentations
13	Oral Presentations
14	Oral Presentations
15	Oral Presentations
16	Oral Presentations

【履修上の注意事項】

【評価方法】

Students will be evaluated based on their attendance, ability to meet deadlines, research paper, and oral presentation.

【テキスト】

There is no text for this class.

【参考文献】

APA Publication Manual

専門演習Ⅱ

担当教員 野口 正樹

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

英語の『なぜ?』に答える形で講義を行います。例えば、動詞“go”の活用形は“go, went, gone”ですが、過去形の“went”だけ形が大きく違うのはなぜ? “Do you know him?”といった簡単な言い方があるのに、“Do you know who he is?”といった言い方をする/出来るのはなぜ? “I think that 文.”を“I think 文.”と“that”を省いて表現するのはなぜ? “play baseball”なのに“play the violin”とするのは? そもそも、大文字と小文字があるのは? これらの疑問を解明しながら、英語全般に関する理解を深めていきます。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡下さい。
- ③ 課題は毎時期限までに完成させます。
- ④ 携帯電話の電源は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

【評価方法】

- ① 授業出席度 (原則皆勤)
- ② presentation
- ③ 疑問解明度
- ④ 質疑応答・全体討論
- ⑤ task 評点
- ⑥ 受講姿勢

【テキスト】

講義内で適宜配布します。

【参考文献】

講義内で適宜配布または連絡します。

専門演習Ⅱ

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は大きく2部構成である。1つは、認知言語学の立場から英語と日本語を比較検討することである。もう1つは、コンピュータ処理が可能な言語データである「コーパス」を用いた英語学習である。僅か20年程前までは、英語母語話者の口にする英語が全てであり、英語学習書の真偽のほどは確認不可能な時代であった。しかし、コーパスが一般に公開され、素人から専門家までが個々人のレベルで「現実を直視できる」時代が既に到来している。非英語母語話者(or 英語非母語話者)には嬉しい時代だ。読書というアナログ的作業をこなしつつ、コンピュータ処理というデジタル的作業の初歩の初歩を紹介する。

【授業の展開計画】

テキスト講読による学習、コーパス利用による学習、ディスカッションによる意見交換の3つが中心です。

【履修上の注意事項】

コンピュータ教室を数回利用しますが、残りは一般教室での授業です。ノート型パソコンを使用するかもしれませんが現時点では未定です。

【評価方法】

①出席率 ②課題 ③発表 ④授業態度

【テキスト】

現在選定中につきTBA。開講時に指示します。コーパスに関する資料は担当者が用意します。尚、図書館の「指定図書」も随時参考にして下さい。

【参考文献】

堀 正広 (2011) 『例題で学ぶ英語コロケーション』 研究社.
鈴木寛次・三木千絵 (2011) 『英語は将来こう変わる』 大修館書店.
李 在鎬・石川慎一郎・砂川有里子 (近刊[2012]) 『日本語教育のためのコーパス調査入門』 くろしお出版.

専門演習Ⅱ

担当教員 津波 聡

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- (1) 映画の精聴、スクリプトの音読を通して、英語4技能の向上を図る。
- (2) 論文作成に関する基礎知識を身につける。
- (3) 論文（先行研究）を読み、卒論テーマの具体化を図る。

【授業の展開計画】

コース前半は、映画の精聴及びドリルを中心に英語力の強化を図る。後半は、研究論文を読み、卒論テーマの具体化を図る。

【履修上の注意事項】

3分の1以上欠席の者には単位は認められない（遅刻2回で欠席1回となる）。

【評価方法】

授業態度（出席状況、発言）演習、提出物、クイズを総合的に評価する。

【テキスト】

初回の講義で指示する。

【参考文献】

講義のなかで紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 尚 真貴子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語教育を含めさまざまなテーマに関する論文を徹底的に読み込んでいく。その際に担当者はレジュメを作成し発表する。その後、個人またはグループでテーマの設定、資料収集、調査、分析、考察、発表など一連の研究のプロセスを体験することにより、卒業論文の作成を行うための基本的な知識、技術を身に付ける。

【授業の展開計画】

実際の授業の進め方（授業の展開計画）については、最初の授業の際に、詳しいシラバスを配布する予定である。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席率＋課題＋発表＋授業への貢献度

【テキスト】

テキストはプリント教材を準備する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

早期英語教育

担当教員 津波 聡

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

第2言語習得の理論や事例を基に、早期英語教育の概要を学びます。又、日本の早期英語教育、特に小学校英語教育の現状や課題について学習します。

【授業の展開計画】

前半はグループ発表やディスカッションを通して第二言語習得や早期英語教育について学習し、後半は小学校英語の現状や課題、基本的な指導技術についてワークショップ形式で学習し、グループ単位の模擬授業を行います。

【履修上の注意事項】

- (1) 座席はグループごとに座る
- (2) 無断欠席・遅刻をしない
(遅刻2回で欠席1回と見なします。1/3以上欠席の場合単位は認められません。)
- (3) グループ発表、ワークショップの前に課題図書を熟読しておく
- (4) 辞書持参

【評価方法】

- (1) 授業態度、クイズ、課題（グループ発表、ブックリポート）を総合的に評価します。

【テキスト】

講義の中で課題図書一覧を配布します

【参考文献】

講義の中で適宜紹介します。

卒業論文 I

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学生生活の総仕上げとして、あるいは、社会人に向けての第一歩として、説得力のある論文を書くことを目的とする。テーマは特に定めず、言語・文化に関するものであれば特に制限を設けない。小さな関心事が実は大きな成果を生み出すかもしれない。論文とは本来こうしたものです。そのためにも、各自にとって最も興味深いテーマを選んで貰い、クラスでの中間報告などを通して焦点を絞っていけるようにしたい。

【授業の展開計画】

- 4月： 各自のテーマを紹介・説明
- 5月： テーマを確定、中間報告
- 6月： 資料収集、中間報告
- 7月： 基本構成、中間報告

【履修上の注意事項】

中間報告時にはタイプされたハンドアウトを用意してもらおう。論文だけではなく、発表形態も同時に再確認してゆく。卒論は英語あるいは日本語で書いてもらおう。その他の言語で書きたい場合は要相談。

【評価方法】

- ①出席 ②発表 ③課題 ④授業態度

【テキスト】

授業の中で連絡します。

【参考文献】

- 黒木登志夫 2011『知的文章とプレゼンテーションー日本語の場合、英語の場合』中公新書. ¥800 (税別)
- 近藤勝重 2011『書くことが思いつかない人のための文章教室』幻冬舎新書. ¥780 (税別).

卒業論文 I

担当教員 松田 節子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この演習と後期の卒業論文Ⅱでは、大学生活4年間の締めくくりとして明快で論理的な論文を書くことを目的とする。テーマについてはバイリンガル教育、第二言語習得、日英語比較など、言語教育・言語文化に関するものであればとくに限定しない。前期は、まず資料の収集法、資料の読み方、論文の体裁、執筆方法など、論文作成の基本を再確認する。続いて、テーマ発表や論文の概要などについて発表する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	テキストの読み合わせ（テーマ設定・資料収集・資料の読み方などについて）
3	テキストの読み合わせ（テーマ設定・資料収集・資料の読み方などについて）
4	テキストの読み合わせ（テーマ設定・資料収集・資料の読み方などについて）
5	個人発表（テーマ発表および収集文献紹介）
6	個人発表（テーマ発表および収集文献紹介）
7	個人発表（テーマ発表および収集文献紹介）
8	個人発表（主要先行文献の要旨発表および現段階での課題について）
9	個人発表（主要先行文献の要旨発表および現段階での課題について）
10	個人発表（主要先行文献の要旨発表および現段階での課題について）
11	個人発表（主要先行文献の要旨発表および現段階での課題について）
12	個人発表（論文概要について）
13	個人発表（論文概要について）
14	個人発表（論文概要について）
15	個人発表（論文概要について）
16	まとめおよび夏季休暇中の作業日程の確認

【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻・無断欠席をしないこと
- (2) ゼミは学生中心なので積極的に参加すること
- (3) 提出物は締切を厳守すること
- (4) 教室では携帯電話の電源を切ること

【評価方法】

出席率、発表内容、討議への貢献度、など総合的な観点から評価する。

【テキスト】

選定中

【参考文献】

各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。

卒業論文 I

担当教員 野口 正樹

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

卒業論文作成への道筋を順を追って解説します。 Title (題目) 設定に始まり, Abstract (要旨), Introduction (緒言), Method (方法: 被験者, 手順), Results (結果), Discussion (考察), Conclusion (結論), References (参考文献), Appendixes (補遺) に及びます。英語に関する topic であれば原則 acceptable です。

【授業の展開計画】

4月 textbook 第1-2章 discussions
5月 textboo 第3-5章 discussions
6月 textboo 第6-8章 discussions
7月 outline 及び reference list 提出
(8-9月 個人夏季課題: 先行文献研究)

【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な事由がある場合は、事前に必ず mail 連絡下さい。
- ③ 課題は毎時期限までに完成させます。
- ④ 携帯電話の電源は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

【評価方法】

- ① 授業出席度 (原則皆勤)
- ② 発表
- ③ 質疑応答
- ④ 課題
- ⑤ 受講姿勢
- ⑥ Outline

【テキスト】

講義内で連絡します。

【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

卒業論文 I

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

This class is intended to enable students to make substantial progress towards completing their graduation thesis. Research topics will be chosen by students themselves, but they are encouraged to write about areas in which they have a strong personal or career related interest. Students are also encouraged to have their topics approved by the instructor.

【授業の展開計画】

In collaboration with the teacher, students will work on a research proposal, during which other scholars, members of the public and other academic resources may be identified. By the end of the term, students will be expected to have completed an initial draft, and will be expected to make an initial oral report on their research.

週	授 業 の 内 容
1	Registration, self introduction, course introduction
2	Introduction to topic selection
3	Introduction to research methodologies
4	Submission of topics and discussion
5	Bibliography writing, notes and plagiarism
6	Fieldwork and individual consultations
7	Submission of research plan and bibliography, etc.
8	Discussion of research plan and bibliography, etc.
9	Fieldwork and individual consultations
10	Submission of introductory paragraphs
11	Return of introductory paragraphs
12	Oral Presentation Preparation Day
13	Interim Oral Presentation
14	Interim Oral Presentation
15	Interim Oral Presentation
16	Interim Oral Presentation

【履修上の注意事項】

While a degree of flexibility is possible in oral presentations, written work can only be accepted in English.

【評価方法】

Evaluation will be based on students' accomplishment of the tasks outlined above, as well as on regular attendance and communication with the teacher.

【テキスト】

Students will be expected to draw on a range of resources which could include, but is not restricted to, books, internet sites and other media, interviews and questionnaires.

【参考文献】

Students will be expected to follow guidelines set forth in the APA Publication Manual.

卒業論文 I

担当教員 追立 祐嗣

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アメリカ文学一般、及びアメリカの文化に関する論文を書くことを目指す。

【授業の展開計画】

前半は、論文の書き方についてのテキストを読み、論文のテーマ、本論の構成、注や参考文献の使い方など、論文執筆のための必須事項を学ぶ。また、幾つかの文学作品を読み、グループ発表に基づきディスカッションを行う。後半から夏期休暇中にかけては、各自でテーマの設定、アウトラインの組み立て、資料の収集などの作業を行う。

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

授業への積極的な参加、テーマ・アウトラインの進捗状況により評価する。

【テキスト】

『卒論を書こう』榎木伸明、三修社（予定）、及びプリント教材

【参考文献】

『知的生産の技術』梅棹忠夫、岩波新書、『レポートの組み立て方』木下是雄、ちくまライブラリー、『知の技法』小林康雄・船曳建夫編、東京大学出版会。その他、適宜紹介する。

卒業論文 I

担当教員 新垣 實

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習I~IV・専門演習I~IVで学んだことを基にして卒業論文を各自書きます。英米言語文化学科で学んだことに関する諸分野（英米文学・言語学・文化・など）から各自テーマを選び、数ヶ月かけてサーチする。その成果を卒業論文として作成するとともに、クラスで発表し、卒業論文集としてまとめる。

【授業の展開計画】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 キャリアガイダンス
- 第3週 図書館オリエンテーション
- 第4週 卒論とは・卒論のテーマ設定
- 第5週 卒論を書くには（1）
- 第6週 卒論を書くには（2）
- 第7週 卒論の形式・卒論テーマ発表
- 第8週 卒論資料検索について
- 第9週 卒論資料収集について
- 第10週 卒論資料集経過発表
- 第11週 資料収集
- 第12週 資料収集
- 第13週 卒論概略作成
- 第14週 卒論概略作成
- 第15週 卒論概略発表
- 第16週 まとめ

【履修上の注意事項】

- 1) 遅刻・無断欠席をしないこと
- 2) 積極的に授業に参加すること
- 3) 授業中に私語・居眠りをしないこと
- 4) 教室では携帯電話の電源を切ること

【評価方法】

出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来

【テキスト】

プリンと教材を準備する。

【参考文献】

参考文献は各自のテーマに沿って紹介する。

卒業論文 I

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

Students will begin working on a 15-page report that introduces one work of Okinawan literature to an English-speaking audience. Although the reports will be written in English, most of the reading and research will be conducted in Japanese. Early in the semester, we will read and discuss Medoruma Shun's 『眼の奥の森』, and students will be shown how to write their reports. Part of this preparation will be learning how to discuss plot, characters, point of view, setting, symbolism, style, and theme.

【授業の展開計画】

In the first half of the semester, we will focus on discussing Medoruma Shun's 眼の奥の森 and how to write our reports. In the second half of the semester, we will begin working on our graduation theses.

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to the course, deciding on groups and stories
2	Lecture on how to write an academic paper and to gather materials
3	Short test on 『眼の奥の森』 / Discussion
4	Discussion: writing about plot structure and characterization (『眼の奥の森』)
5	Discussion: writing about setting and historical background (『眼の奥の森』)
6	Discussion: writing about point of view (『眼の奥の森』)
7	Discussion: writing about symbolism and writing style (『眼の奥の森』)
8	Discussion: writing about theme (『眼の奥の森』)
9	Test on student-selected works / Student presentations
10	Student presentations of their works
11	Overview of writing a graduation thesis
12	DUE: Report Introductions / Discussion of student papers
13	DUE: Plot summaries / Discussion of plot, focussing on student papers
14	DUE: Character lists / Discussion of characterization, focussing on student papers
15	DUE: Point of view / Discussion of point of view, focussing on student papers
16	Final REVISIONS DUE / evaluations / preview of second semester

【履修上の注意事項】

- 1- Students must write their reports in English, according to MLA guidelines.
- 2- Students will be guided through the process of writing their reports, so it is important to meet deadlines.

【評価方法】

Short Tests (20%), Class participation (20%), Reports (20%), Final Revision (40%)

【テキスト】

目取真俊の『眼の奥の森』 and whatever work the student decides to write on.

【参考文献】

MLA Handbook of Writers of Research Papers. Sixth Edition. By Joseph Gibaldi.

卒業論文Ⅱ

担当教員 新垣 實

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習Ⅰ～Ⅳ・専門演習Ⅰ～Ⅳで学んだことを基にして卒業論文を各自書きます。英米言語文化学科で学んだことに関する諸分野（英米文学・言語学・文化・など）から各自テーマを選び、数ヶ月かけてサーチする。その成果を卒業論文として作成するとともに、クラスで発表し、卒業論文集としてまとめる。

【授業の展開計画】

- 1回 オリエンテーション
- 2回 卒論第1回中間発表
- 3回 卒論第1回中間発表
- 4回 卒論作成
- 5回 卒論作成
- 6回 卒論作成
- 7回 卒論第2回中間発表
- 8回 卒論第2回中間発表
- 9回 卒論作成
- 10回 卒論作成
- 11回 卒論作成
- 12回 卒論発表
- 13回 卒論発表
- 14回 卒論発表
- 15回 卒論発表
- 16回 まとめ

【履修上の注意事項】

- 1) 遅刻・無断欠席をしないこと
- 2) 積極的に授業に参加すること
- 3) 授業中に私語・居眠りをしないこと
- 4) 教室では携帯電話の電源を切ること

【評価方法】

出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来

【テキスト】

プリンと教材を準備する。

【参考文献】

参考文献は各自のテーマに沿って紹介する。

卒業論文Ⅱ

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

Students will complete their graduation theses and present their work to the class. The thesis will consist of a 15-page report that thoroughly introduces one work of Okinawan literature to an English-speaking audience. Students will also be expected to revise their reports after receiving feedback from the instructor and other students. At the end of the semester, students will be asked to do a PowerPoint presentation.

【授業の展開計画】

This course is a continuation of 卒業論 I. The first third of the semester will focus on finishing the reports; the second third, on revising the reports; and the final third, on presenting those reports to the class.

週	授 業 の 内 容
1	Introductions and review of first semester.
2	DUE: Works Cited / discussion focussing on student work
3	DUE: Symbolism and imagery / discussion focussing on student work
4	DUE: Writing style / discussion of style, focussing on student work
5	DUE: Criticism / discussion focussing on student work
6	Group discussion: theme of works
7	DUE: Theme / discussion of theme, focussing on student papers
8	FIRST DRAFTS DUE
9	Pair check: Students evaluate each other's papers.
10	Individual conferences / Revision of papers
11	Individual conferences / Revision of papers
12	FINAL DRAFTS DUE / Lecture: Giving effective presentations
13	Working on presentations with teacher feedback.
14	PowerPoint presentations
15	PowerPoint presentations
16	Review / Evaluations

【履修上の注意事項】

- 1- Students must write their reports in English, according to MLA guidelines.
- 2- We will be working on revisions together, so it is important for student to meet deadlines.
- 3- With student permission, reports will be posted to our web site, which introduces Okinawan literature to English speakers.

【評価方法】

Final Report (75%), PowerPoint presentation (25%)

【テキスト】

There is no text, but students should have a copy of the work that they are writing about. Students should also have a B5 notebook.

【参考文献】

MLA Handbook of Writers of Research Papers. Sixth Edition. By Joseph Gibaldi.

卒業論文Ⅱ

担当教員 野口 正樹

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期の研究課題設定及び outline と資料収集を基に、卒論を完成させます。進捗状況を定期的に発表し、達成度に応じて個別指導を行います。また、卒論中間発表を行い、inter-class での情報交換や建設的な批評を仕上げに生かします。draft 提出1ヶ月前からは、日本語の文章表現も検討します。卒論提出後には発表会を行い、口頭発表技能を培うと共に、critique を今後の研究・教育に繋げます。

【授業の展開計画】

10月	卒論中間発表	(10月中または下旬予定)
11月	data collection 及び polishing up	
12月	文章表現推敲及び draft 提出	(12/18 2:40 PM)
1月	卒論最終原稿提出	(1/29 2:40 PM)
2月	卒論発表会	(2月初旬予定)

【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡下さい。
- ③ 課題は毎時期限までに完成させます。
- ④ 携帯電話の電源は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

【評価方法】

- ① 授業出席度 (原則皆勤)
- ② 発表
- ③ 質疑応答
- ④ 課題
- ⑤ 受講姿勢
- ⑥ 卒論

【テキスト】

講義内で適宜配布します。

【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

卒業論文Ⅱ

担当教員 追立 祐嗣

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アメリカ文学一般、及びアメリカ文化に関する論文を書くことを目指す。

【授業の展開計画】

夏期休暇中までに、各自でテーマの設定、アウトラインの組み立て、資料の収集などの作業を行い、10月・11月に中間発表を行う。12月下旬に第一稿、1月中旬に第二稿を提出し、2月に完成原稿を提出する。

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

原則として、完成論文の提出者には単位を与えるが、中間発表、授業への積極的な参加、完成論文などを総合的に考慮して成績の評価を行う。

【テキスト】

『卒論を書こう』榎木伸明、三修社（予定）、プリント教材

【参考文献】

『知的生産の技術』梅棹忠夫、岩波新書、『レポートの組み立て方』木下是雄、ちくまライブラリー、『知の技法』小林康雄・船曳建夫編、東京大学出版会。その他、適宜紹介する。

卒業論文Ⅱ

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

This class is intended to enable students to complete their graduation thesis, and to use this achievement as a means to consider their potential contribution to society after graduating. As well as submitting a graduation thesis, through group work and presentations, the class aims to facilitate communication about important issues and create lasting friendships.

【授業の展開計画】

In collaboration with the teacher, students will work on refining drafts of their theses, and make a final presentation sharing the results of their work with the class.

週	授 業 の 内 容
1	Second Semester Registration, Course Introduction
2	Fieldwork and individual consultations
3	Submission of Body (minimum of 10 pages)
4	Return of body
5	Resubmission of entire Body
6	Fieldwork and individual consultations
7	Submission of entire first draft including Cover Page, Outline, Text, Bibliography, Notes
8	Return of first draft
9	Submission of second draft
10	Return of second draft
11	Individual Consultations
12	Submission of final drafts
13	Oral Presentations
14	Oral Presentations
15	Oral Presentations
16	Oral Presentations

【履修上の注意事項】

While a degree of flexibility is possible in oral presentations, written work can only be accepted in English.

【評価方法】

Evaluation will be based on students' accomplishment of the tasks outlined above, as well as on regular attendance and communication with the teacher.

【テキスト】

Students will be expected to draw on a range of sources which could include, but is not restricted to, books, internet sites and other media, interviews and questionnaires.

【参考文献】

Students should follow the standards of the APA Publication Manual.

卒業論文Ⅱ

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

中間報告を通じたディスカッション形式でクラスを進めたい。各自のテーマが出揃った段階で関連文献の読み合わせもクラスで行う。また、学生同士の意見交換や本格的な発表練習も兼ねたセミナー合宿も考えている。少しでも質の高い論文になるように配慮したい。

【授業の展開計画】

10月： 夏期休暇中の成果を発表 (10月末に第1稿提出)
11月： 論文再構成 (11月末に第2稿提出)
12月： 中間報告 (12月末に第3稿提出)
1月： 最終報告 (1月中に最終稿提出)

【履修上の注意事項】

提出期限に間に合わせること。

【評価方法】

①出席 ②発表 ③授業態度 ④締切り厳守

【テキスト】

授業の中で連絡します。

【参考文献】

授業の中で紹介します。

卒業論文Ⅱ

担当教員 松田 節子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期の卒業論文Ⅰに引き続き、卒業論文をまとめあげていくことを目的とする。後期は夏季休暇中におおよそ書き上げた各自の論文について中間発表をすることから始める。発表する時は、レジュメ、参考文献リストおよび資料を準備し、ゼミのメンバー全員に配布する。この段階で論文の体裁、参考文献リストの様式などについて再度チェックする。あわせて、発表後の討議と講評を参考に論文をよりよい内容にまとめていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	中間発表（討議および講評）
3	中間発表（討議および講評）
4	中間発表（討議および講評）
5	中間発表（討議および講評）
6	中間発表をうけての個人面談および指導
7	中間発表をうけての個人面談および指導
8	中間発表をうけての個人面談および指導
9	中間発表をうけての個人面談および指導
10	中間発表をうけての個人面談および指導
11	下書き原稿提出
12	下書き原稿返却、加筆修正
13	下書き原稿加筆修正
14	最終原稿提出
15	論文最終発表会（学外ゼミ）
16	卒業論文集作成

【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、無断欠席をしないこと
- (2) ゼミは学生中心なので積極的に参加すること
- (3) 提出物は締切を厳守すること
- (4) 教室では携帯電話の電源を切ること

【評価方法】

出席、発表内容、討議への貢献度、卒業論文の内容、など総合的な観点から評価する。

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献】

各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。

第2言語習得論

担当教員 松田 節子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

子どもの第一言語習得（母語習得）はほとんど例外なくうまく行くのに、思春期以降の第二言語習得（英語習得）はなぜ多くの場合うまく行かないのか。第二言語習得には決まった順序があるのか。やる気があれば第二言語習得は成功するのか。聞くだけで第二言語ができるようになるのか。このような第二言語習得（英語習得）にまつわる素朴な疑問について、第二言語習得研究から考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第二言語習得論とは
2	子どもはどのように母語を習得するのか
3	学習者の誤りは第二言語習得とどのように関わっているのか
4	プレゼンテーション
5	学習者の母語は第二言語習得にどのような影響を与えるのか
6	学習者は第二言語を決まった順序で習得していくのか
7	第二言語習得に大切なのはインプットかアウトプットか
8	中間テスト
9	年齢は第二言語習得にどのような影響を及ぼすのか
10	個人差は第二言語習得とどのように関係するのか（1）
11	個人差は第二言語習得とどのように関係するのか（2）
12	プレゼンテーション
13	社会文化要因は第二言語習得とどのように関係するのか
14	第二言語コミュニケーション能力とは
15	全体のまとめと補足
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、無断欠席をしないこと。
- (2) 指定された箇所を熟読して、必ず質問や意見をもって授業に臨むこと。
- (3) 積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

出席、課題、プレゼンテーション、授業態度、授業への貢献度、テストの結果などから総合的に評価する。

【テキスト】

選定中（授業開始時に指示する。）

【参考文献】

適宜配布する。

Discussion Skills

担当教員 ショーン ターバート

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

This class is designed to help students improve their ability to communicate using English. This class will include a variety of pair/group/class activities to develop communication skills, with a focus on group discussions. Some topics that will be covered in this course are expressing opinions, giving presentations (individual and group) and participating in group discussions.

【授業の展開計画】

This course aims to develop students' communication skills through discussion. Group discussions will be an important part of class, with a focus on problem-solving group discussions. Students will learn the basic structure of group discussions, as well as how to become an effective group leader/participant. Topics will be chosen by students, and students will be expected to give presentations on problems for discussion both individually and in groups.

【履修上の注意事項】

Students will be expected to speak in English as much as possible in class. It is assumed that students who register for this class are motivated and have a strong desire to improve their English discussion skills. Students who continually speak Japanese in class should expect to receive a failing grade.

【評価方法】

The final grade will be based on attendance, participation, pair/group work, presentations (individual and group) and homework assignments related to class activities. As there are no tests or quizzes, your grade will depend largely on the effort you put into class. Do not expect to receive a passing grade simply by coming to class. In order to pass this class, you must actively and effectively participate in class. You must also come to class prepared.

【テキスト】

There is no assigned textbook for this class. The instructor will provide materials to be used in class.

【参考文献】

Debate

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

The aim of this course is to introduce students to the theory and practice of debate, with an emphasis on actual debating. Students will also receive some guidance in public speaking, especially as it pertains to debate.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to class and methods, self-introductions
2	Differences between debate and conversation, types of debate
3	The value of debate, debate and culture, developing a critical attitude
4	Principles of debate, preparing for a debate, outlining
5	Basics of public speaking
6	Debate 1 (easy topic)
7	Introduction to policy debate
8	Debate preparation in groups
9	Debate preparation in groups
10	Debate 2 Resolved: That English Should be Taught in All Japanese Elementary Schools
11	Evaluation of Debate 2, choosing topic for final debate
12	Debate preparation in groups
13	Debate preparation in groups
14	Debate rehearsal and critique
15	Debate 3: Formal Policy Debate on a Student-Chosen Topic
16	Review

【履修上の注意事項】

Students should be prepared to spend most of each period speaking in English. Debate speeches should neither be memorized nor read, but they should be well-rehearsed. Students may use note cards during their speeches, but they should be able to maintain eye contact with the audience. Let's have fun debating!

【評価方法】

Grades will be calculated as follows: class participation (10%), short test (10%), notes and evaluations (10%), easy debate (10%), simplified policy debate (25%), and full-blown policy debate (35%). However, students must attend at least 70% of all classes to receive a passing grade. DO NOT BE ABSENT FOR THE DEBATES.

【テキスト】

No textbook is required. However, students will be required to bring an electronic dictionary and a B5 notebook to every class. Students are expected to take extensive notes during class.

【参考文献】

None.

同時通訳

担当教員 島袋 美智子

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

通訳者の心構え、準備などについて述べ、訓練メニューの説明を行う。リスニング強化、英語要約を行う。音読重視。逐次通訳及び同じテキストを用いてサイトラ、同時通訳の基礎訓練を行う。ペアワークについて学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	通訳について、訓練メニュー、単語増強の必要性、リスニング強化について
2	テキスト1：シャドーイング、英語要約、逐次通訳、ノートテイキング
3	テキスト2：英語のインタビューを聞いて英語で要約を行う。新聞英語のサイトラを行う。
4	テキスト2：同じテキストでメモ、逐次通訳を行う。プロの通訳をテープやDVDで聞く。
5	テキスト2：同じテキストでサイトラ、同時通訳練習、ペアでプレゼンを行う。
6	テキスト3：数字の英語を聞いて通訳用メモを取り、日本語でアウトプットする。
7	テキスト4：映画の記者会見とプロの逐次通訳を聞く。通訳分析を行う（レポート提出用）
8	テキスト4：「通訳の極意」から日本語→英語へのサイトラ・トランスレーションの練習
9	テキスト5：日本語のスピーチを聞いて英語での要約を行う。逐次、同時通訳の訓練を行う。
10	テキスト5：同じテキストでサイトラ、同時通訳練習、プレゼンを行う（ペアで）
11	テキスト6：英語のスピーチを聞いて要約をする。メモ、逐次通訳を行う。
12	テキスト7：日本語のエッセイを聞いて英語で要約、メモ取りのプレゼンを行い、逐次通訳。
13	テキスト7：同じテキストでサイトラ、同時通訳練習、プレゼン（ペアワーク）
14	期末テストのリハーサル：PC録音のため、一度リハーサルを行う。
15	期末テストは通訳実技テストを録音する（同時通訳1つ、サイトラ・トランスレーション1つ）
16	

【履修上の注意事項】

遅刻は原則として認めない。理由如何により9分まで認めるがそれ以降は欠席扱いとする。
ラボ教室使用予定。スピーチ、音声録音用の記録メディア（USB、CD-ROM）を常に携帯して下さい。
クラス毎に課題があり、リスニング、シャドーイング、サイトラ・トランスレーションなどの予習が必要と考えて下さい。出席を重視しますのでなるべく休まないようにして下さい。

【評価方法】

1. 学期の終了時に通訳実技テストを行う（成績は5段階で評価。3以上が講座を修了することができる）
2. 出席に関しては全クラスのうち三分の二以上を修了の条件とする。出席を重視する。
3. 課題として「プロ通訳パフォーマンス分析」のレポートを提出する。

【テキスト】

1. 「通訳の極意」著者：小林敦夫（こばやしあつお）出版社：（株）南雲堂フェニックス 03-3202-5625
2. 講師の作成する自主テキスト（新聞記事、online記事、スピーチ及びインタビューテキスト、DVD など）

【参考文献】

1. 「トレンド日米表現辞典」小学館 03-3230-5745
2. 電子辞書（少なくとも20万語以上の英語辞書、広辞苑）
3. 通訳翻訳ジャーナル
4. 英語字幕つきのシネマ
5. 単語増強用ノート

日英語比較研究

担当教員 松田 節子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では日本語と英語の比較を行い、日本語らしさ、英語らしさの要因を整理する。整理の方法としては、日本人学習者が英語を習得する際に困難を感じる問題点を取り出し、構文、意味、音韻、発想などの各見地から英語との比較研究を試み、それらの困難点を克服する方法を探る。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	日本語の特質
2	語彙と意味の比較（単語と意味の対応関係、色彩語彙の比較）
3	語順の比較（OV言語とVO言語）
4	プレゼンテーション
5	発音の比較（音韻構造とアクセント）
6	文の構造と主語の比較（主語の立て方、主語の顕示と暗示）
7	プレゼンテーション
8	問題点の整理とまとめーその1
9	時に関する比較（テンスとアスペクト）
10	肯定・否定に関する比較（否定の内容と肯定文、部分否定、否定疑問に対する答え）
11	プレゼンテーション
12	待遇表現に関する比較（ポライトネス）
13	表現構造の比較（<スル>的な言語と<ナル>的な言語）
14	文化と発想の比較（ことわざ）
15	問題点の整理とまとめーその2
16	テスト

【履修上の注意事項】

この科目の登録を希望する者は、できれば、「英語学概論」、「英語学特殊講義Ⅰ」、「日本語学概論」、「日本現代語文法Ⅰ・Ⅱ」のいずれかを履修済みであることが望ましい。英語教育、日本語教育に関心のある者だけでなく、日本語との比較の視点から自己の英語学習を効果的に進めたいと考えている者にも受講を勧めたい。

【評価方法】

出席、プレゼンテーションの内容と発表態度、授業への貢献度、テストなど総合的な観点から評価する。

【テキスト】

選定中（講義開始時に指定する。）

【参考文献】

適宜紹介する。

日本語現代文法 I

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

外国語の理解や習得に長けていても、日本語に関して説明に窮する場合も多々ある。本講では日本語の基礎的な文法事項を取り扱いながら、日本人が見落としがちな日本語の特性、または、外国人が間違え易い日本語の特徴を学んでゆく。外国語の視点から日本語を再考する。

【授業の展開計画】

第1-2週： 品詞と語の構造
第3-4週： 動詞
第4-5週： 形容詞
第6-7週： 判定詞
第8-9週： 助動詞
第10/11週： 中間テスト
第12/13週： 名詞
第14週： 指示詞
第15週： その他
第16週： 期末試験

*** 選定するテキスト・理解度により、内容が多少変更する場合もある ***

【履修上の注意事項】

日本語教員免許取得を目指す学生には必修科目であり一年次からの履修となる。履修手続きに漏れのないように確認すること。尚、受講生の理解度に合わせて授業の展開計画を柔軟に変更する場合もある。

【評価方法】

①出席率 ②課題 ③試験 ④授業態度

【テキスト】

年度末まで熟考するため現時点で未定。

【参考文献】

荒川洋平 2009『日本語という外国語』東京：講談社現代新書 ¥740（税別）.
森山卓郎（編）2009『国語からはじめる外国語活動』東京：慶応義塾大学出版会. ¥2,310.

日本語現代文法Ⅱ

担当教員 柴崎 礼士郎

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期で学習した事項を踏まえ文法事項を更に理解してゆく。後期は受講者の理解度を確認するために、グループ作業を行う予定である。項目ごとに担当グループを決めてクラス発表を行う。授業では発表の補足あるいは更に理解を深めるための指導を行う。

【授業の展開計画】

第1-2週： 助詞
第3-4週： 構文
第4-5週： ボイス
第6-7週： テンス・アスペクト
第8-9週： ムード
第10/11週： 単文・複文
第12/13週： 接続表現
第14週： その他
第15週： 総復習
第16週： 試験

*** 選定するテキスト・理解度により、内容が多少変更する場合もある ***

【履修上の注意事項】

日本語を含めた語学教員にはプレゼンテーション能力が要求されます。下調べをしっかりと行い、発表時にはハンドアウトも用意すること。尚、受講生の理解度に合わせて授業の展開計画を柔軟に変更する場合もある。

【評価方法】

①出席率 ②課題 ③試験 ④授業態度 ⑤発表内容

【テキスト】

年度末まで熟考するため現時点で未定。

【参考文献】

荒川洋平 2007『続・もしも…あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』スリーエーネットワーク ¥1,260.
荒川洋平・森山新 2009『日本語教師のための応用認知言語学—わかる!!』凡人社 ¥1,500 (税別)

日本語表現法演習 I

担当教員 元山 由美子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。

前期は、周りや自分の使っている日本語に意識を向けます。これまで気がつかなかった身近な言葉のおもしろさを発見するとともに、客観的に見る力を養います。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

積極的に教室活動に参加すること。

【評価方法】

出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから総合的に評価する。

【テキスト】

ハンドアウトを使用する。

【参考文献】

適宜指示する。

日本語表現法演習 I

担当教員 ーケリ 綾子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。

前期は、周りや自分の使っている日本語に意識を向けます。これまで気がつかなかった身近な言葉のおもしろさを発見するとともに、客観的に見る力を養います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション クラスメートを知ろう
2	偏愛マップ 自己紹介について
3	自己紹介（各自 約2～3分）
4	ウチナーヤマトゥグチ（1）動詞の活用
5	ウチナーヤマトゥグチ（2）助詞
6	ウチナーヤマトゥグチ（3）沖縄地域共通語
7	ウチナーヤマトゥグチ（4）沖縄の若者ことば
8	ウチナーヤマトゥグチ（5）レポートの書き方 レポートの課題提示
9	敬語（1）
10	敬語（2）
11	敬語（3）
12	敬語（4）
13	テスト
14	日本語検定 3級
15	日本語検定 解答
16	日本語検定 解答

【履修上の注意事項】

積極的に教室活動に参加し、日本語で表現する楽しさを味わってください。1校時の授業ですが、遅刻をしないで出席できる学生の受講を期待します。

【評価方法】

出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから、総合的に評価します。

【テキスト】

ハンドアウトを使用します。

【参考文献】

適宜指示します。

日本語表現法演習Ⅱ

担当教員 ーケリ 綾子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。後期は、書く、調べる、発表するなどのアカデミック・スキルのトレーニングをします。具体的には、「日本語表現法演習Ⅰ」を踏まえ、普段の生活の中で気になっている日本語についてグループごとに実態調査をし、発表します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション プロジェクトワークの目的
2	ウチナーヤマトゥグチ復習 文体、文章の書き方
3	プロジェクトワークについて グループ分け、トピック決定
4	プロジェクトワーク (1) アンケート質問事項作成
5	プロジェクトワーク (2) クラス内で試しアンケート
6	プロジェクトワーク (3) アンケート項目別に予測をたてる
7	プロジェクトワーク (4) アンケート集計、考察
8	プロジェクトワーク (5) 発表準備、レジュメ、発表資料作成
9	プロジェクトワーク (6)
10	発表練習 各グループで口頭練習
11	発表 (1)
12	発表 (2)
13	発表 (3)
14	発表 (4)
15	発表 (5)
16	まとめ

【履修上の注意事項】

積極的に教室活動に参加すること。

【評価方法】

出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから、総合的に評価する。

【テキスト】

ハンドアウトを使用する。

【参考文献】

適宜指示する。

日本語表現法演習Ⅱ

担当教員 元山 由美子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。後期は、調べる、書く、発表するなどのアカデミック・スキルのトレーニングをします。具体的には、「日本語表現法演習Ⅰ」を踏まえ、普段の生活の中で気になっている日本語についてグループごとに実態調査をし、発表します。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

積極的に教室活動に参加すること。

【評価方法】

出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから総合的に評価する。

【テキスト】

ハンドアウトを使用する。

【参考文献】

適宜指示する。

Public Speaking

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

The aim of this course is to introduce students to the basics of public speaking, with an emphasis on speaking extemporaneously. Students will receive training and instruction in delivery, speech preparation, audience analysis, outlining a speech, gesturing, using props and visual aids, persuasion, researching a topic, and critiquing a speech.

【授業の展開計画】

Students will be required to give three speeches: a speech about a painful experience, an informative speech, and a persuasive speech. In addition, students might be required to upgrade (using visual aids and other methods) one speech that they will then have to deliver as a final exam. The speeches will be taped.

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to class and methods, overview of public speaking, self-introductions
2	Basics of the speechmaking process, delivering your speech
3	PAINFUL EXPERIENCE SPEECHES and discussion of speeches
4	Preparing your speech: choosing a topic, analyzing the audience, and gathering information
5	Preparing your speech: organizing your speech, writing effective introductions
6	INFORMATIVE SPEECHES
7	Discussion and evaluation of speeches
8	Capturing and maintaining audience attention
9	Organizing a persuasive speech
10	Persuading an audience
11	PERSUASIVE SPEECHES
12	Discussion and evaluation of speeches
13	Using props and visual aids
14	Using Power Point effectively
15	FINAL SPEECHES
16	FINAL SPEECHES

【履修上の注意事項】

Students should be prepared to spend most of each period speaking in English. I expect students to deliver all of their speeches extemporaneously, which means that speeches should be well-rehearsed. Students may use note cards during their speeches, but they should be able to maintain eye contact with the audience.

【評価方法】

Grades for speeches will be assigned based on student evaluations, submitted notes, and teacher observation. Grade percentages will be assigned as follows: painful experience speech (15%), informative speech (30%), persuasive speech (40%), and evaluation of other speeches (15%). However, if there is time to give a final speech, these percentages will change.

【テキスト】

No textbook is required; however, students should bring an electronic dictionary and B5 notebook to every class.

【参考文献】

Numerous handouts will be distributed during class.

ビジネス英語

担当教員 島袋 美智子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

ビジネスのシーンに必要な英語表現を学びます。テキストは2つ用意しましたので音声の発音、ペアでのロールプレイなどを行います。クラスが大きい場合はグループに分けてロールプレイを行います。発声を重視しますので出来るだけ英語を口に出して下さい。英文履歴書、Eメールの書き方、オフィス英語、注文や決済書などビジネスで必要な事項を学びます。グループ活動によるプレゼンも予定しています。

【授業の展開計画】

テキストに沿った概要（案）

- 1 会議とプレゼンテーション
- 2 展示会の開催
- 3 顧客や納入業者と取引する
- 4 ビジネストリップの通信手段
- 5 取引相手に会う
- 6 出張のこと
- 7 飛行機での出張
- 8 宿泊施設
- 9 オフィスの日々の仕事
- 10 社内コミュニケーション
- 11 印刷物の取り扱い
- 12 電話とファクシミリ
- 13 コンピュータと事務機器
- 14 お金の事
- 15 オフィスのメンテナンス

【履修上の注意事項】

遅刻は原則として認めません。理由如何により9分まで認めますが、それ以降は欠席扱いとします。クラス毎に課題があり、テキストCDのリスニング、シャドーイング、内容把握の予習が必要と考えて下さい。出席を重視しますので、なるべく休まないようにして下さい。私語は極力抑えるようにして下さい。

【評価方法】

1. 学期末にテストを実施する（成績は5段階で評価。3以上が講座を修了することができる）。
2. 出席に関しては全クラスのうち四分の一以上の欠席がある場合は履修を認めない。出席重視。
3. プレゼンテーション、グループワーク、ペアワークへの積極的参加を重視する。

【テキスト】

1. イラストでわかるビジネスの英語表現 IBCパブリッシング ￥2310
2. イラストでわかるオフィスの英語表現 IBCパブリッシング ￥2310

【参考文献】

1. Interactive Business English on DVD Seibido出版
2. English in 30 Seconds 南雲堂出版（DVD付）
3. Web sites での情報収集。The Wall Street Journalなど。

Pronunciation Workshop

担当教員 李 イニッド

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

This course helps students understand English pronunciation and overcome the areas they find most challenging. Specifically, students will learn how to master individual sounds, word stress, rhythm, connected speech, reduction, phrasing, and intonation.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	Consonants (1)
3	Consonants (2)
4	Consonants (3)
5	Review; Quiz I
6	Vowels (1)
7	Vowels (2)
8	Vowels (3)
9	Review; Quiz II
10	Accent & Rhythm
11	Liasion
12	Reduction
13	Review; Quiz III
14	Phrasing
15	Intonation
16	Review; Quiz IV

【履修上の注意事項】

No particular requirements.

【評価方法】

Attendance & class participation (50%), Quizzes (50%)

【テキスト】

To be announced in class.

【参考文献】

Pronunciation Workshop

担当教員 -グレイ クエン ヒデオ

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

Develop students understanding of English pronunciation

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Intro
2	unit 1
3	unit 2
4	unit 3
5	unit 4
6	unit 5
7	unit 6
8	unit 7
9	unit 8
10	unit 9
11	unit 10
12	unit 11
13	unit 12
14	unit 13
15	unit 14
16	unit 15

【履修上の注意事項】

loosen that tongue. let's get ready to wag!

【評価方法】

Class attendance and ACTIVE participation will be paramount.
Desire to improve and willingness to work will serve you well.

【テキスト】

pronunciation in use

【参考文献】

N/A

翻訳研究

担当教員 素民喜 琢磨

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

このクラスでは、本格的な翻訳を教えるにあたり、特に英文を日本語に翻訳することに重点をおいて行う。また、生徒に翻訳における専門的な知識と、翻訳家に必要とされる技術を学んでもらうことを何よりの目的とする。

【授業の展開計画】

自分が翻訳したい資料などを授業に持ってきてもらいたい。学説や、方法論、翻訳に対する信念は向かい合う様々な問題として討論される。

週	授 業 の 内 容
1	講義内容と方法の説明、翻訳紹介
2	翻訳の種類、依頼者のニーズ、翻訳家の仕事、簡潔な翻訳
3	課題1 レシピ
4	道具、辞書、ウェブサイト、本格構成、TMソフトウェア
5	課題2 運転免許証
6	課題3 ユーモアテキスト
7	課題4 広告テキスト
8	課題5 ビジネス通信
9	課題6 ビジネス通信
10	課題7 文学テキスト
11	課題8 文学テキスト
12	グループ活動 アメリカのテレビ番組を日本語に訳して、日本語の吹き替え版を作ります。
13	グループ活動
14	グループ活動
15	吹き替え版の録音
16	吹き替え版の録音 / 公開

【履修上の注意事項】

この講義を受ける受講生には高い英語読解力を期待する。

翻訳の際に翻訳機を使わないこと。翻訳機にかけたものは、盗用とみなす。同様にクラスメートの翻訳を写さないこと。自分で翻訳したことが証明されなければならない。

【評価方法】

生徒の評価は、講義での発言や提出物が15%、宿題の課題が35%、最終のグループ発表が25%、最終ノート提出が25%である。受講者は少なくとも75%以上の出席と、欠席の際の補修は完璧に提出しなければならない。

【テキスト】

この講義ではテキストは必要ないが、受講生は電子辞書とB5のノートを毎回持ってくる。配布された資料や翻訳する際参考にした資料をコピーして持って来てもらうこともある。

【参考文献】